

奈良先端大 バイオサイエンスD棟外壁改修工事

図 面 リ ス ト	
図面番号	図 面 名 称
L-01	表紙・図面リスト
特-01	特記仕様書（1）
特-02	特記仕様書（2）
A-01	案内図・配置図
A-02	改修工事概要 外壁補修図・数量表
A-03	平面図
A-04	南立面図
A-05	北立面図
A-06	東立面図
A-07	西立面図
A-08	矩計図
A-09	詳細図（1）
A-10	詳細図（2）
A-11	詳細図（3）

訂正	令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名	奈良先端大 バイオサイエンスD棟外壁改修工事	年度	令和8年7月
		課長	課長補佐	係長	専門職員	担当者	図面名称 表紙・図面リスト	縮 尺 No Scale	図面番号 L-01	

奈良先端大バイオサイエンスD棟外壁改修工事

I 工事概要

1. 工事場所

奈良県生駒市高山町8916番地の5

(奈良先端科学技術大学院大学生駒団地構内)

2. 完成期限

令和9年2月26日(金)

3. 建物概要

建物名称	バイオサイエンスD棟	
工種	改修	
構造	SR	
階数	7	
建築基準法による	建築面積 (㎡)	867
	延べ面積 (㎡)	6,015
消防法施行令別表第一の区分	(7)項	
改修面積 (㎡)	6,015	
備考		

4. 工事項目

○印の付いたものが対象工事項目

建物別及び屋外	工事種別
工事種目	バイオサイエンスD棟
○2 仮設工事	一式
○3 防水改修工事	一式
○4 外壁改修工事	一式
・5 建具改修工事	
・6 内装改修工事	
○7 塗装改修工事	一式
・8 耐震改修工事	
○9 環境配慮改修工事	一式
・ブル改修工事	
・電気設備工事	
・機械設備工事	
・	

5. 指定部分

・無

・有

対象部分 (指定部分工期

令和

年

月

日

(曜日)

6. 概成工期

・無

・有

令和

年

月

日

(曜日)

(1.2.1) [1.2.1]

II 工事仕様

1. 共通仕様

(1) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学工事請負等契約細則の工事請負契約基準、現場説明書、図面12枚及び本特記仕様書2枚によるほか、下記仕様書等のうち、○印の付いたものを適用する。

○公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「標準仕様書」という。)

○公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「改修標準仕様書」という。)

○文部科学省建築工事標準仕様書(特記基準)(令和7年版)(以下「文科仕様書」という。)

○文部科学省建築改修工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科改修仕様書」という。)

○工事写真撮影要領(令和5年版)

・建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)

○建築工事標準詳細図(平成28年版)

(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。――なお、電気設備工事の特記仕様書は()による。――機械設備工事の特記仕様書は()による。

2. 特記仕様

(1) 本特記仕様書の表記

1) 項目は、○印の付いたものを適用する。

2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と◎印の付いた場合は、共に適用する。

3) 特記事項に記載の()内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の[]内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の(())内表示番号は、文科仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の[[]]内表示番号は、文科改修仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

4) ◎印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(平成12年法律第100号)に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和4年2月25日変更閣議決定)」に定める特定調達物品における判断の基準(特定調達品目「公共工事」)においては表1中の品目ごとの判断の基準を満たすものを示す。

章

1 各章共通事項

○適用区分

・建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。

・風圧力

風速 (V₀= 32 m/s)

地表面粗度区分 (・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)

・積雪荷重

平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域別表(32) 30cm (奈良県)

(1.3.3~4) [1.3.3~4]

この工事現場に下記いずれかの資格を有する電気保安技術者を選任する。

項目名	電気保安技術者
1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	○
2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○
3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	○
4 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	○
5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	○
6 第1種電気工事士の資格を有する者	○
7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○
8 第2種電気工事士以上の資格を有する者	○
9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学(実験を含む)に関する科目を修めて卒業した者	・

工事用電力を横外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。

○施工条件

この工事現場では、次の施工条件による。(1.3.5) [1.3.5]

現場説明書別紙2による。

○発生材の処理等

(1) 引渡しを要するもの(1.3.11) [1.3.12]

1) 品名なし

引渡し先

集積場所

(2) 特別管理産業廃棄物1) 品名なし

処理方法

(3) 現場において再利用を図るもの1) 品名なし

使用箇所

(4) 再資源化を図るもの1) 品名なし

受入場所

2) 品名

(5) その他発生材については、標準仕様書に従い、適切に処理する。

○環境への配慮

(1.4.1) [1.4.1]

建築物内部に使用する材料等とは、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。

①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。

②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。

③接着剤は、可塑性(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-n-エチルヘキシル等を含有しない難燃発性の可塑性を除く)が追加されていない材料を使用する。

④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。(1.4.2) [1.4.2]

(1) 本工事に使用する材料は、設計図面に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。

(2) 製品名が記載された材料は、当該製品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承認を受ける。

(3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

(4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造所等は、以下に指定する事項を満たすものとし、その証明となる資料を監督職員に提出して承認を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承認を受けた場合はこの限りでない。

・品質及び性能に関する試験データを整備していること。

・生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。

・法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。

・製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。

・安定的な供給が可能であること。

・販売、保守等の営業体制を整えていること。

(5) 製造所等に関する資料の提出を求める材料

○材料の品質等

(1.4.4) [1.4.4]

材料名	備考

・石綿含有建材の調査

事前調査

[1.5.1]

工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。

貸与資料 ()

・分析による石綿含有建材の調査

分析対象

アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トリモライト

分析方法

材料名	定性分析方法		定量分析方法	
	(JIS A 1481-1) または (JIS A 1481-2)	(JIS A 1481-3) 、 (JIS A 1481-4) または (JIS A 1481-5)		
タイル下地モルタル	・ (箇所)	・ (箇所)		
外壁吹付材	・ (箇所)	・ (箇所)		
	・ (箇所)	・ (箇所)		

サンプル数 1箇所あたり3サンプル

採取箇所

・図示による

・監督員の指示による

(1.5.2) [1.7.2]

適用工事種別	技能検定の種別
タイル工事	タイル張り技能士

標準仕様書に定めがあるもの以外で、次に示す工程については、施工の確認及び報告を監督職員に行うものとする。

(1.5.4) [1.7.4]

施工の確認及び報告を行う工程

備考

外壁調査完了時

(外壁修補施工前に全面打診調査をおこない、外壁調査報告書を監督職員に提出すること)

(1.5.5) [1.7.5]

標準仕様書等に定めがあるもの以外で、次に示す施工については、監督職員の検査を受ける。

外壁改修工事完了後(足場解体前)

(1.5.7) [1.7.7]

標準仕様書等に定めがあるもの以外で、次に示す工事段階及び事項については、監督職員の立会いを受ける。

施工の立会いを行う工程

備考

外壁調査完了時

○完成時の提出図書

(1.7.1~3) [1.9.1~3]

次の図書を監督職員に提出する。また、それらを本工事事目的物に關し使用するための権利については、発注者に委譲する。

1) 完成図

○CADデータ (電子納品) 及び電子データ (PDF形式)

○A3版原図 1部

・A1版原図 1部

○A3複写図 (製本) 1部

・A1複写図 (製本) 1部

2) 保全に関する資料

○電子データ (PDF形式)

○A4ファイル綴じ 1部

3) 工事写真 (「工事写真撮影要領」による。)

○原本 (電子媒体)

○アルバム (紙又は電子媒体) 1部

4) 完成写真

工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。

撮影部位及び箇所数	形式・サイズ	提出セット数	画素数及び画質等	撮影者
外観正面 (2)箇所	○電子データ (JPEGフルカラー・圧縮率1/4程度)	1	4500×3000ピクセル以上で画像補正を行ったもの	建築完成写真の撮影実績がある者で、監督職員が承諾する撮影業者
	・カラー印刷紙キャビネ判			
上記と異なる外部: 4箇所内部: 0箇所各改修面	○カラー印刷紙キャビネ判A4アルバム綴じ (注)	1		
	・カラー印刷紙キャビネ判A4アルバム綴じ (注)			
外部: 箇所内部: 箇所程度	○電子データ (JPEGフルカラー)		1280×960ピクセル以上かつ撮影したデジタルカメラの設定のうち最高の画質	任意
	・カラー印刷紙キャビネ判A4アルバム綴じ			

(注) のアルバムは併せて作成する。

5) 施工図・施工計画書・完成図書一式

○電子データ (PDF形式)

○A4ファイル綴じ 1部

電子納品は次の規定に従うものとする。

1) 貸与する設計図のCADデータは以下による。

著作名: 奈良先端科学技術大学院大学

ファイル形式: 完成図・DXF又はJWW形式及びPDF形式 工事写真: JPEG形式

貸与条件: 貸与するCADデータを本工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用しないこと。

2 仮設工事

○足場等

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

外部足場

○設置する (設置範囲 ○工事に必要な範囲 ・図示による)

・設置しない

防護シート

○設置する (設置範囲 ○工事に必要な範囲 ・図示による)

・設置しない

内部足場

・設置する (※脚立、足場板等)

○設置しない

・材料、撤去材等の運搬方法

種別 (・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種)

C種: 利用可能なエレベーター (・図示による)

D種: 利用可能な階段 (・図示による)

養生方法等 [2.3.1]

○既存部分

養生方法 (※ビニルシート、合板)

・既存家具、既存設備等

養生方法 (※ビニルシート等)

・既存ブラインド、カーテン等

養生方法 (・ビニルシート等)

保管場所 (・図示による)

・固定された備品、机、ロッカー等の移動

・図示による

既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

○既存部分の養生

・施工数量調査

調査範囲

・図示による

調査方法

・図示による

既存部分の破壊を行った場合の補修方法

・図示による

調査報告書 (提出部数 1部)

○既存下地の処理

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等

・図示による

POS工法及びUPOS工法 (機械的固定方法) の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※改修標準仕様書3.2.6(4) (g) ①~③による設備機器架台、配管受部、バラベツト、貫通パイプ回り、手すり・丸壇の取付け部、塔置出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理※監督職員と協議する

○図示による

高圧水洗洗に使用する高圧水洗機の性能: 水圧10MPa以上入隅の補修及び処理: 既存入隅に面取りしてある場合、不良部は既存と同材で補修すること。尚、不良部が広範囲にわたる場合は、撤去の上、ケレン清掃すること。

○塗膜防水

新設防水層の種別 [3.6.2、3]

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料	高日射反射率防水 [5]	備考
			種類	使用量	
・POX	※X-1	・主材料の製造所の仕様	※主材料の製造所の仕様	・適用する	脱気装置・設ける
	・X-2				
	・X-1H				・設けない
	・X-2H				・設けない
○L4X	・X-1	○主材料の製造所の仕様	※主材料の製造所の仕様	・適用する	脱気装置・設ける
	・X-2				
	・X-1H				○設けない
	・X-2H				

○下地調整は不陸をポリマーセメントモルタルで平滑に補修する

塗膜範囲の20%を見込む

○シーリング

シーリング改修工法の種類 [3.1.4] [3.7.2、3、7、8]

・シーリング充填工法

○シーリング再充填工法

・拡張シーリング再充填工法

シーリング材の種類、施工箇所

下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)
図示	PS-2、WS-2、PU-2

接着性試験

○簡易接着性試験

・引張接着性試験

3 防水改修工事

○塗膜防水

○下地調整は不陸をポリマーセメントモルタルで平滑に補修する

塗膜範囲の20%を見込む

○シーリング

シーリング改修工法の種類 [3.1.4] [3.7.2、3、7、8]

・シーリング充填工法

○シーリング再充填工法

・拡張シーリング再充填工法

シーリング材の種類、施工箇所

下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)
図示	PS-2、WS-2、PU-2

接着性試験

○簡易接着性試験

・引張接着性試験

訂正

令和

年

月

日

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学

奈良先端大バイオサイエンスD棟外壁改修工事

令和8年7月

奈良先端大バイオサイエンスD棟外壁改修工事

特記仕様書 (1)

No Scale 特-01

4	○ 施工数量調査	調査範囲 ○外壁改修範囲 [1.6.2、3] ・図示による 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタル塗上げ及びひび割れ張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ・図示による 調査報告書（提出部数 ○1部） ○ その他 ○ 工事範囲すべてのガラス面は清掃（付着物・ゴミ除去）を実施する。
4-3	○ ひび割れ部改修工法	○樹脂注入工法 [4.1.4] [4.3.5、6、7、8] 工法の種類 ひび割れ幅(mm) 注入口間隔(mm) 注入量 (mL/m) ③ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～1.0 以下 ※ 200～300 ○ 30 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～0.3 未満 ・ 50～100 ・ 40 0.3以上～0.5 未満 ・ 100～200 ・ 70 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上～1.0 以下 ・ 150～250 ・ 130 注入状況の確認方法 ※コアの抜き取りを行う 抜き取り個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 抜き取り部の補修方法 ※図示による ・Uカットシール材充填工法 ・シーリング材 充填材料の種類 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 シーリング材のうにポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・行わない シーリング材の試験は改修標準仕様書3章 防水改修工事による。 ・可とう性エポキシ樹脂 ・シル工法 ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ○欠損部改修工法 [4.1.4] [4.3.9、10] ○埃吹き工法 ○エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 ・現場調査材料 （セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による） ・既設合材料（ ） 既製目地材 ・使用する（形状・図示による） 仕上がり厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示による [4.1.4] [4.3.11～16] 工法の種類 アカービンの本数(本/m) 注入口の数(箇所/m) 注入量(mL/箇所) 一般部 指定部 一般部 指定部 ○アンカーピンニング ※16 ※25 - - ※25 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ○ 49 ・アンカーピンニング ※13 ※20 ※12 ※20 ※25 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ・アンカーピンニング ※13 ※20 ※12 ※20 ※50 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・ ・注入口付アンカーピンニング ※9 ※16 - - ※25 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ・注入口付アンカーピンニング ※9 ※16 ※9 ※16 ※25 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ・注入口付アンカーピンニング ※9 ※16 ※9 ※16 ※50 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・ ・充填工法 - - - - ・モルタル塗替え工法 - - - - アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm程度 ○タイル部分張替え工法 接着剤の種類 ○ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557に基づく一液反応硬化型変成シリコーン樹脂系 タイル張りの工法 ○外装タイル ○密着張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り シーリング 改修特記仕様書3章 防水改修工事による。 シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系 シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章 防水改修工事による。 ○目地ひび割れ部改修工法 [4.1.4] [4.4.5、16] ○伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ○図示による シーリングは、改修特記仕様書第3章 防水改修工事による。
4-4	○ 既存タイル張りの撤去	○ 範囲は施工前調査による 撤去範囲は下地モルタルまで ○樹脂注入工法 [4.1.4] [4.4.5、6] 工法の種類 ひび割れ幅(mm) 注入口間隔(mm) 注入量 (mL/m) ③ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～1.0 以下 ※ 200～300 ○ 30 ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～0.3 未満 ・ 50～100 ・ 40 0.3以上～0.5 未満 ・ 100～200 ・ 70 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上～1.0 以下 ・ 150～250 ・ 130 注入状況の確認方法 ※コアの抜き取りを行う 抜き取り個数 ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 抜き取り部の補修方法 ・図示による ○タイル部分張替え工法 [4.1.4] [4.4.5、7、8] 接着剤の種類 ○ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557に基づく一液反応硬化型変成シリコーン樹脂系 タイル張りの工法 ○外装タイル ○密着張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り シーリング 改修特記仕様書3章 防水改修工事による。 [4.1.4] [4.4.5、9～15] [4.5.9～15] 工法の種類 アカービンの本数(本/m) 注入口の数(箇所/m) 注入量(mL/箇所) 一般部 指定部 一般部 指定部 ○アンカーピンニング ※16 ※25 - - ※25 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ○ 49 ・アンカーピンニング ※13 ※20 ※12 ※20 ※25 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ・アンカーピンニング ※13 ※20 ※12 ※20 ※50 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・ ・注入口付アンカーピンニング ※9 ※16 - - ※25 部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ・注入口付アンカーピンニング ※9 ※16 ※9 ※16 ※25 全面エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ・注入口付アンカーピンニング ※9 ※16 ※9 ※16 ※50 全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・ ・注入口付アンカーピンニング ・ - - - ※25 エポキシ樹脂注入工法 - - - - ・タイル部分張り替え工法 - - - - ・タイル張り替え工法 - - - - アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm程度 ○タイル部分張替え工法 接着剤の種類 ○ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557に基づく一液反応硬化型変成シリコーン樹脂系 タイル張りの工法 ○外装タイル ○密着張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り シーリング 改修特記仕様書3章 防水改修工事による。 シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系 シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章 防水改修工事による。 ○目地ひび割れ部改修工法 [4.1.4] [4.4.5、16] ○伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ○図示による シーリングは、改修特記仕様書第3章 防水改修工事による。
4-5	○ 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁	○ 欠損部改修工法 ○ 浮き部改修工法 ○ 目地改修工法
5	○ タイルの形状、寸法等	○ 製作タイル
6	○ 下地調整	○ 錆止め塗料塗り
7	○ 塗装改修工事	○ 塗装
8	○ 石綿含有建材の事前調査結果	○ 石綿含有建材の除去工事
9	環境配慮改修工事	

○ 耐候性塗料塗り (DP)
指定色
学際融合領域研究棟 2号館 (VBL棟) : そひ色(そひいろ) N-744
動物実験施設 (H棟) : 木賊色(とくさいろ) N-852
※大日本インキ「日本の伝統色」第6版
つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗 (EP-G) メタリック
製造所・製品名
エスケー化研 水性ファインメタリック 同等品
インターナショナルペイント 水性メタルコート シルバー 同等品
※外壁塗装を行う範囲は下地調整材 (C-1) 塗を全面行うこと。
つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (コンクリート面、モルタル面、プラスチック面、せっこうボード面、その他ボード面) の塗替えの場合のしめ止め
※改修標準仕様書表7.9.1の工程1の下塗りをしめ止めシーラーとする
※既存塗装面 (ゆず肌仕上げ) を補修した場合、ゆず肌仕上げにすること。

○ 石綿含有建材の事前調査結果
石綿障害予防規則第3条第5項に基づき事前調査における石綿分析結果
・外壁タイル(目地+下地) 不検出
・外壁仕上げ塗料
塗料及び下地調整材と思われる部分に含有 カリウム抽出 (0.1-5%)
・階段仕上げ塗料 (ゆず肌仕上げ)
下地調整材と思われる部分に含有 カリウム抽出 (0.1-5%)
詳細資料 (証明書及び報告書) は契約後に提供する。
なお、上記以外で調査が必要な場合は、1章 石綿含有建材の調査に従い実施する。
[9.1.3]

○ 石綿含有建材の処理
除去対象範囲
・図示による ・ 外壁吹付け材撤去部
除去工法
※改修標準仕様書9.1.3 (2) (7) による
・湿潤化、集塵により行う
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・埋立処分 (管理型最終処分場)
・中間処理 (溶融施設又は無害化処理施設)

訂正	令和	年	月	日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名	奈良先端大 バイオサイエンスD棟外壁改修工事	年度	令和8年7月
					課長	課長補佐	係長	専門職員	担当者	図面番号		縮尺	図面番号
										特記仕様書 (2)	No Scale		特-02

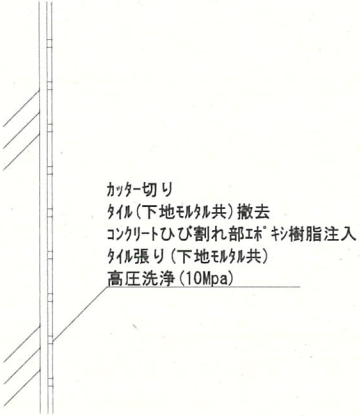
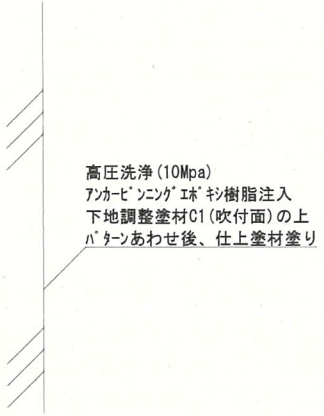
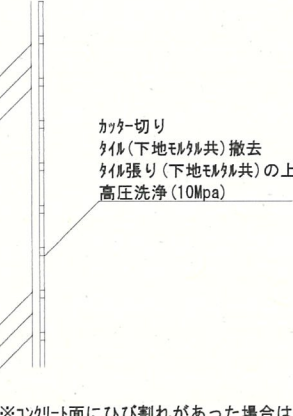
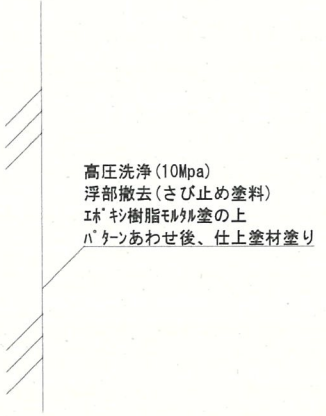
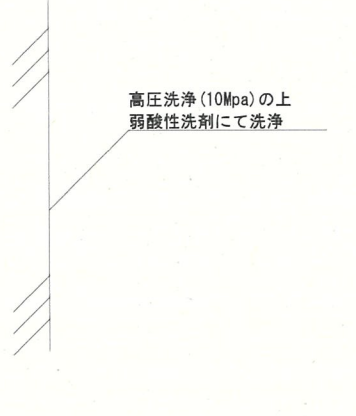
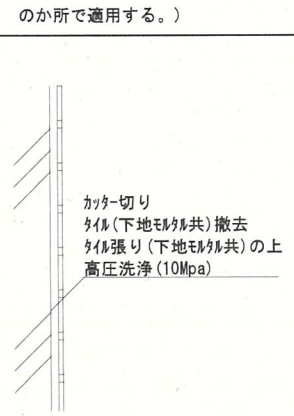
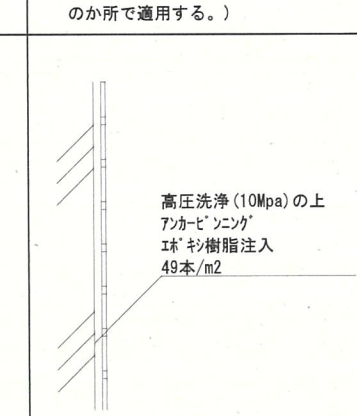
改修工事概要

工事建物	工事項目	工事内容
■ バイオサイエンスD棟外壁改修	1. 外壁の改修	外壁：ひび割れ補修【コンクリート面、タイル面】 外壁：浮き・欠損 補修【コンクリート面、タイル面】 外壁：エフロッセンス補修【コンクリート面、タイル面】
	2. 塗膜防水塗替え改修	屋上パラペット：既存塗膜防水 高圧洗浄(10mpa)、下地調整（ポリマーセメントモルタルにより平滑に補修）の上 珪藻系塗膜防水（X-2工法）新設
	3. 屋外階段床等の改修(床防水)	コンクリート床：既存塗膜防水 高圧洗浄(10mpa)、下地調整（ポリマーセメントモルタルにより平滑に補修）の上 防滑性珪藻系塗膜防水（X-2工法）新設
	4. シーリング打替え改修	アルミ製建具周囲・銅製建具周囲・打継目地・誘発目地・化粧目地・コンクリート鉄部取合い部、シーリング打ち替え
	5. 銅製部の塗装替え改修	既存 銅製建具・銅製手摺・スチールプレート 下地調整（RB種）の上DP塗装 建具調整
	6. 外壁の塗装替え改修	既存 コンクリート打放しの上、FUE(メタリック塗装)、高圧洗浄(10mpa)、下地調整材(C-1)塗の上、EP-G(メタリック塗装)（一部ゆず肌仕上げ）
	7. その他	アルミ・銅製建具 ガラス面：イオンデポジット除去(ウロコ落とし) アルミ建具：建具枠清掃 アルミ笠木(避雷導体付)：清掃 樹木枝払い：樹高3m枝張2m幹径0.28 樹高3m枝張2m幹径0.31m×4 樹高5m枝張3m幹径0.31m×4 樹高6m枝張4m幹径0.38m 搬入扉・手摺部 化粧ボルト用穴：穿孔穴拡大(Φ15mm → 18mm)、錆止め処理の上、DP塗装

外壁補修数量表（参考数量）

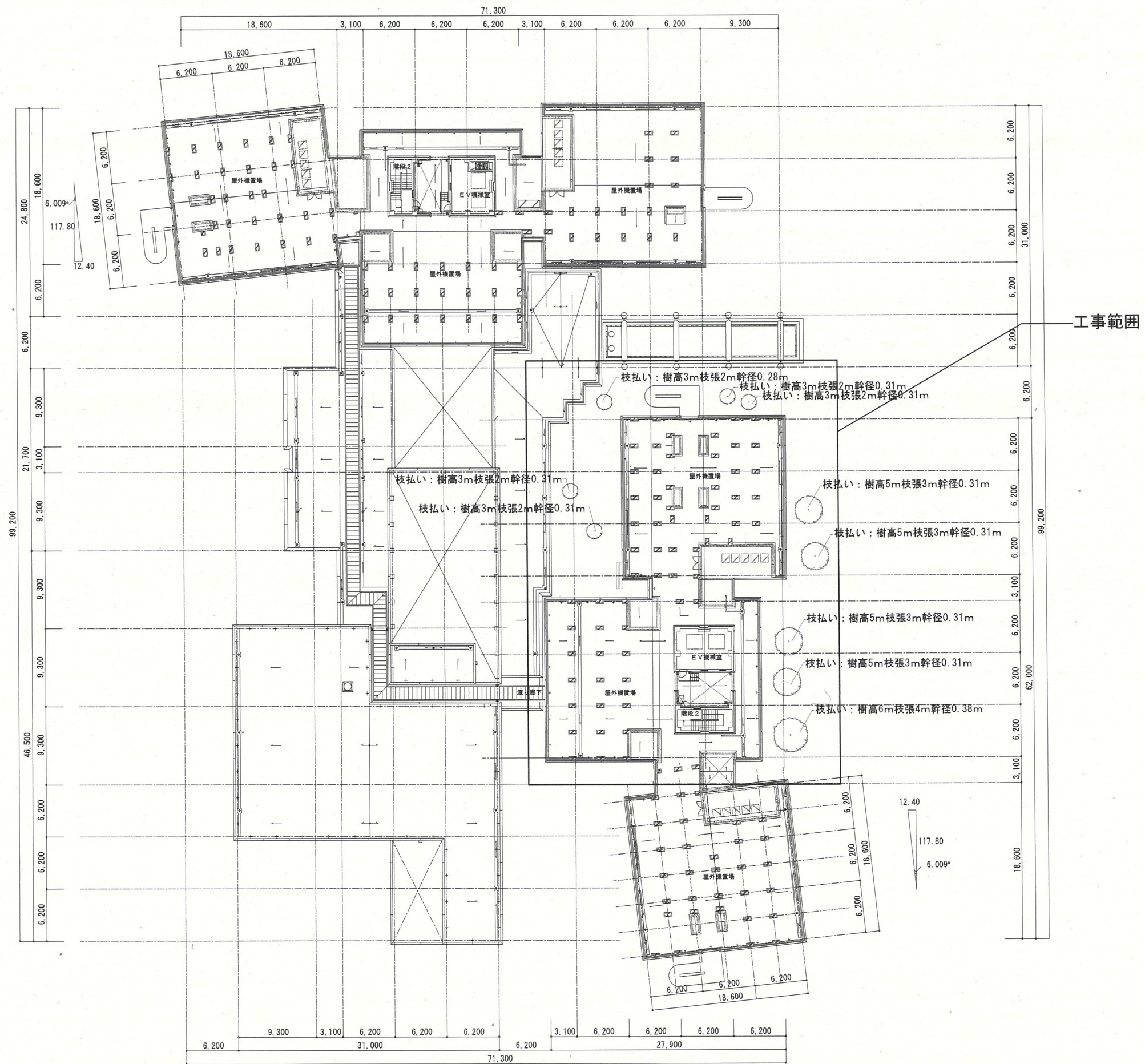
部位・工法		ひび割れ補修 塗装面	ひび割れ補修 タイル面下	浮き (欠損) 補修 塗装面	エフロ補修	外壁タイル補修							シーリング打ち替え														
						タイル張替工法							—			ボリサルファイト® シーリング® 15×20	ボリサルファイト® シーリング® 5×10	ボリサルファイト® シーリング® 5×7	変成シリコン シーリング® 15×10	変成シリコン シーリング® 10×10							
						平面 グレー	平面 ラスター	平面 着色	役物 グレー 2面	役物 ラスター(特殊面状) 2面	役物 ラスター(特殊面状) 水切りタイプ 2面	役物 ラスター(特殊面状) 3面	箇所	㎡	m												
単位		m	m	㎡	個所	㎡			m			箇所	㎡	m													
バイオサイエンスD棟北棟及び講義棟	東	0	5.1	0	0	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0	0	0.2	0	289	613	1,122	0									
	西	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	1	0.2	0	248	644	1,121	1.4									
	南	0	2.3	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0.1	10.8	174	124	205	5.7									
	北	0	8.6	0	0	0.3	0.1	0	0	0	0	0	0.1	10.8	211	278	260	4.7									
	計	0	16	0	0	0.7	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	1	0.6	21.6	922	1,659	2,708	11.8									

外壁補修図

ひび割れ補修（塗装面）	ひび割れ補修（タイル面下）	浮部補修（塗装面）	欠損部 補修（タイル面）	浮き（欠損） 露筋部補修（塗装面）	エフロ補修	浮き部 補修（タイル面）	浮き部 補修（タイル面）
数量合計	 高圧洗浄(10Mpa) コンクリートひび割れ部エポキシ樹脂注入 下地調整塗材C1(吹付面)の上 パターンあわせ後、仕上塗材塗り カッター切り タイル(下地も共)共)撤去 コンクリートひび割れ部エポキシ樹脂注入 タイル張り(下地も共)共) 高圧洗浄(10Mpa) ※全タイル面は高圧洗浄を行うこと。	 高圧洗浄(10Mpa) アンカービタニングエポキシ樹脂注入 下地調整塗材C1(吹付面)の上 パターンあわせ後、仕上塗材塗り	 カッター切り タイル(下地も共)共)撤去 タイル張り(下地も共)共)の上 高圧洗浄(10Mpa) ※コンクリート面にひび割れがあった場合は ひび割れ補修(タイル面)による ※全タイル面は高圧洗浄を行うこと。	 高圧洗浄(10Mpa) 浮部撤去(さび止め塗料) エポキシ樹脂モルタル塗の上 パターンあわせ後、仕上塗材塗り	 高圧洗浄(10Mpa)の上 弱酸性洗剤にて洗浄 ※全タイル面は高圧洗浄を行うこと。	 カッター切り タイル(下地も共)共)撤去 タイル張り(下地も共)共)の上 高圧洗浄(10Mpa)	 高圧洗浄(10Mpa)の上 アンカービタニング エポキシ樹脂注入 49本/m2

訂正 令和 年 月 日

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名	年度
課長	課長補佐	係長	専門職員	担当者	奈良先端大 バイオサイエンスD棟外壁改修工事	令和8年7月
					図面名称	縮尺 図面番号
					改修工事概要 外壁補修図・数量表	1:100 A-02



訂正	令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名	年度
		課長	課長補佐	係長	専門職員	担当者	奈良先端大 バイオサイエンスD棟外壁改修工事	令和 8年 7月
							図面名称	縮尺 図面番号
							平面図	1:500 A-03

A部・B部・C部(外壁タイル等)
既存 45角磁器質タイル貼り
改修 外壁補修(ひび割れ、欠損、浮き部補修)の上、
高圧洗浄(10mpa)

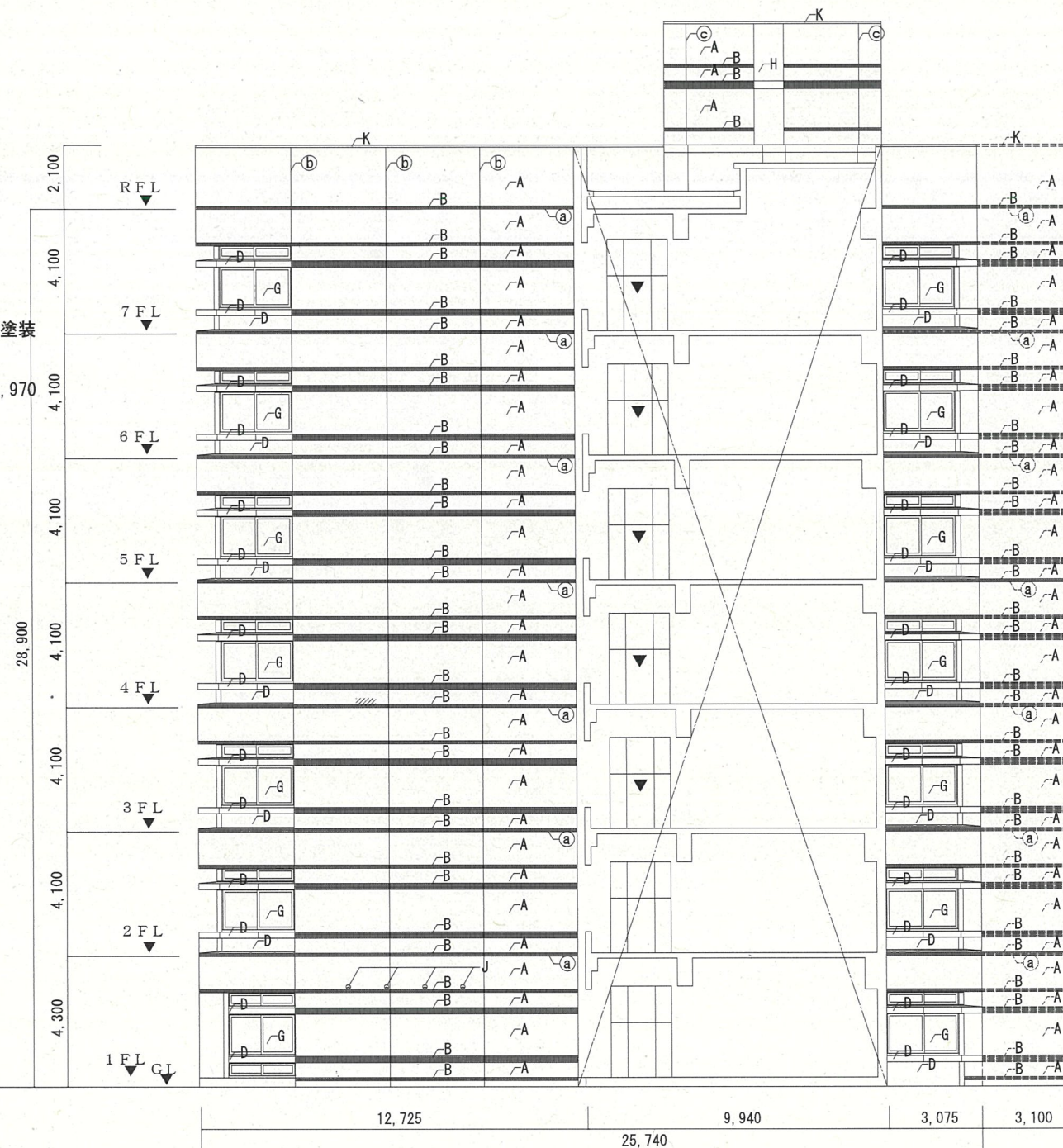
D部(外壁塗装等)
既存 コンクリート面仕上A種の上、メリック塗装
改修 高圧洗浄(10mpa)、外壁補修(ひび割れ、欠損、
浮き部補修)跡、下地調整材(C-1)の上、EP-G(メリック)塗装

G部(窓建具等)
既存 8連引違い窓(欄間込)(W2,375+W18,180+W2,375)×H1,970
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
ガラス外面 イソネホジツ除去(ウロ落とし)
建具清掃(枠共)

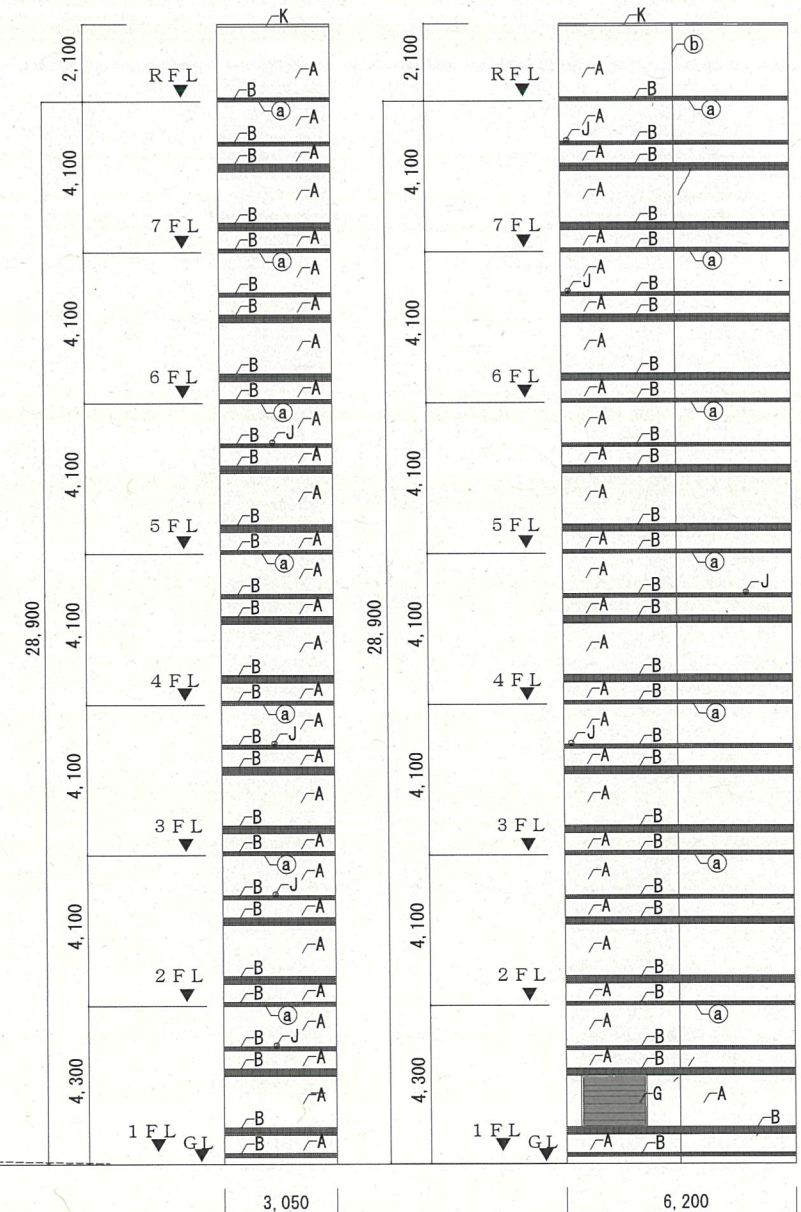
H部(スチールパネル部等)
既存 W970×H3,975
改修 下地調整(RB種)の上、DP塗装

J部(ベントキャップ等)
改修 周囲シーリング打替え10×10
清掃

K部(バラベツト等)
既存 アルミ笠木(避雷導体付)
改修 清拭



①南面立面図



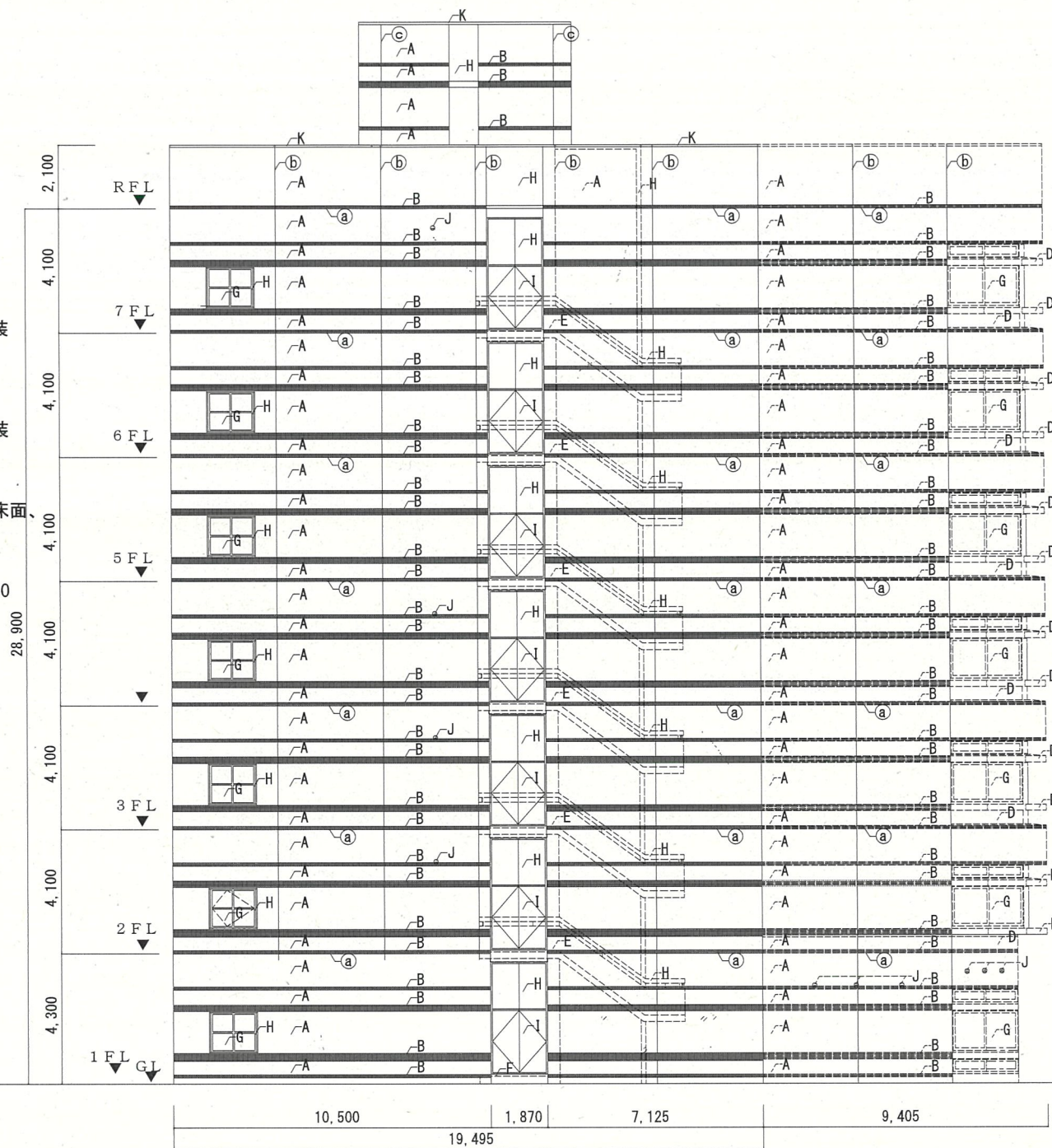
③南面西側立面図

②南面東側立面図

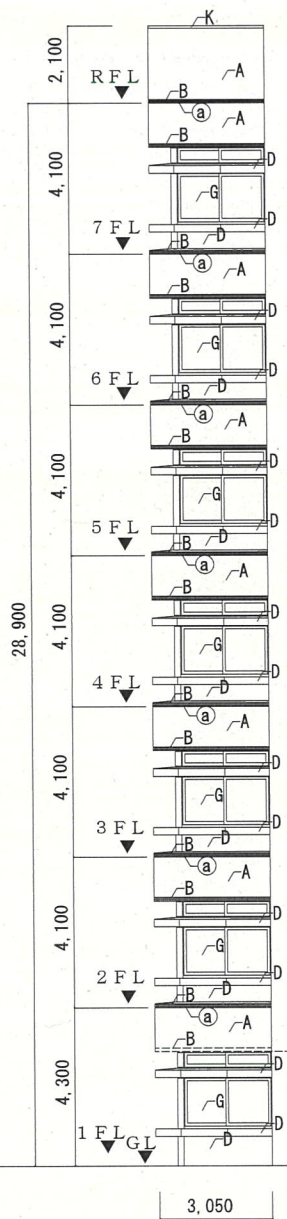
	凡 例 外壁改修	—	ひび割れ補修ヶ所	凡 例 既存仕上 ↓ 改修仕上 及び 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	スチール 既存FE → DP塗替え
		▨	剥落・剥離補修ヶ所		B	同上模様入り(ラスタータイル) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	スチールドア 既存FE → DP塗替え
		▨	エフロ補修ヶ所		C	同上模様入り(特注色) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	ベントキャップ → 周囲シーリング打替え
		(a)	打継目地+タイル伸縮目地 5×10		D	コンクリート面仕上A種 FUE(メリック) → EP-G(メリック)塗替	K	アルミ笠木(既製品)(メタリック) → 清拭
凡 例 既存目地 (全て打替え)	(a)	(b)	誘発目地 5×7		E	コンクリート面仕上A種 FUE(メリック)(ゆず肌仕上げ) → EP-G塗替(メリック)(ゆず肌仕上げ)	L	ウレタン系塗膜防水(X-2) → 高圧水洗いの上、ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替
		(c)	化粧目地 15×20		F	コンクリート面仕上A種 → 防滑性ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替	M	
					G	アルミサッシュ・ガラリ(シルバーアルマイト) → 建具清掃(ガラス共)	N	

訂正 令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学	工事名 奈良先端大 バイオサイエンスD棟外壁改修工事	年度 令和8年7月
	課長 課長補佐 係長 専門職員 担当者	四面名称 南立面図	縮尺 図面番号 1:200 A-04

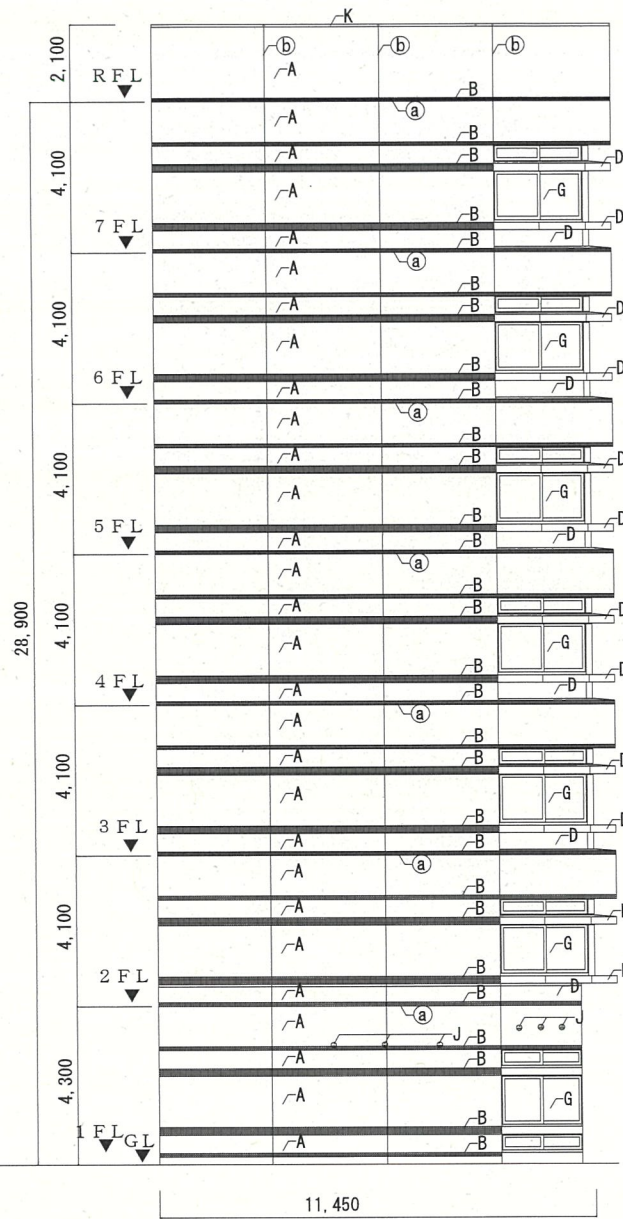
- A部・B部・C部(外壁タイル等)
既存 45角磁器質タイル貼り
改修 外壁補修(ひび割れ・欠損・浮き部補修)の上、
高圧洗浄(10mpa)
- D部(外壁塗装等)
既存 コンクリート面仕上A種の上、メタリック塗装
改修 高圧洗浄(10mpa)、外壁補修(ひび割れ・欠損、
浮き部補修)跡、下地調整材(C-1)の上、EP-G(メタリック)塗装
- E部(階段外壁塗装等)
既存 コンクリート面仕上A種の上、メタリック塗装(ゆず肌仕上げ)
改修 高圧洗浄(10mpa)、外壁補修(ひび割れ・欠損、
浮き部補修)跡、下地調整材(C-1)の上、EP-G(メタリック)塗装
(ゆず肌仕上げ)
- F部(階段床等)
改修 既存コンクリート高圧水洗いの上、防滑性ウレタン塗膜防水(X-2)床面、
立上りH100
- G部(窓建具等)
既存 8連引違い窓(欄間込)(W2,375+W18,180+W2,375)×H1,970
堅軸回転窓 W1,260×H1,248
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
ガラス外面 イソネ'ボジット除去(ウロ落とし)
建具清掃(枠共)
- H部(窓建具枠等)
既存 W1,600×H1,400
改修 下地調整(RB種)の上、DP塗装
- H部(屋外階段鋼製部等)
既存 手摺H-150×150×7×10
改修 下地調整(RB種)の上、DP塗装
- I部(鋼製扉等)
既存 W1,870×H2,050(+H1,575)
改修 下地調整(RB種)の上、外面DP塗装(枠小口共)
建具周囲シーリング打替え15×10
建具調整及び外面清掃
- J部(ベントキャップ等)
改修 周囲シーリング打替え10×10
清掃
- K部(バラベット等)
既存 アルミ笠木(避雷導体付)
改修 清拭



①北面立面図



②北面東側立面図

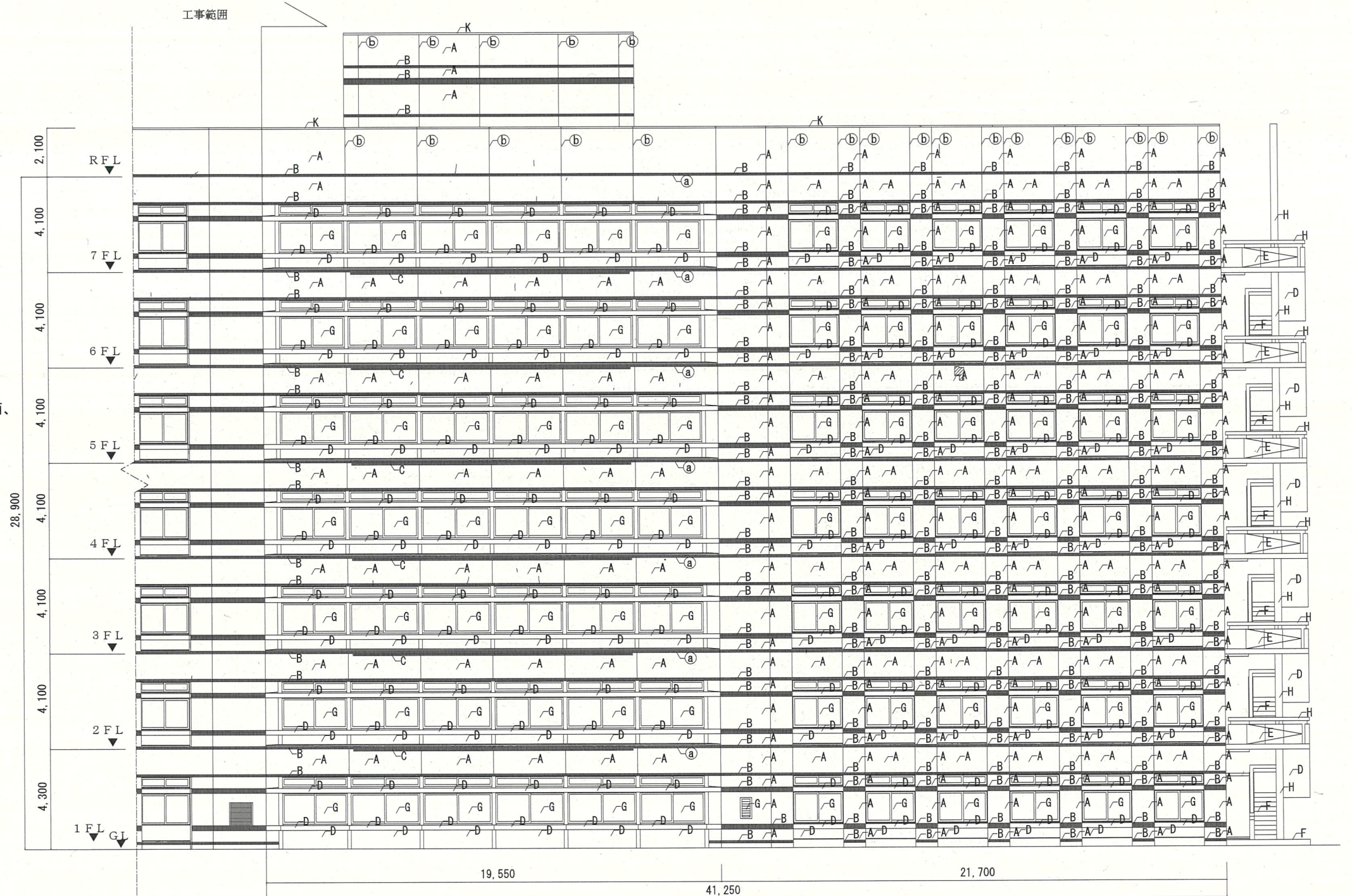


③北面西側立面図

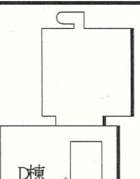
	凡例	—	ひび割れ補修ヶ所	凡例 既存仕上 ↓ 改修仕上 及び 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	スチール 既存FE → DP塗替え
	外壁改修	▨	剥落・剥離補修ヶ所		B	同上模様入り(ラスタータイル) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	スチールドア 既存FE → DP塗替え
	凡例	▨	エフロ補修ヶ所		C	同上模様入り(特注色) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	ベントキャップ → 周囲シーリング打替え
	既存目地 (全て打替え)	(a)	打継目地+タイル伸縮目地 5×10		D	コンクリート面仕上A種 FUE(メタリック) → EP-G(メタリック)塗替	K	アルミ笠木(既製品)(メタリック) → 清拭
		(b)	誘発目地 5×7		E	コンクリート面仕上A種 FUE(メタリック)(ゆず肌仕上げ) → EP-G塗替(メタリック)(ゆず肌仕上げ)	L	ウレタン系塗膜防水(X-2) → 高圧水洗いの上、ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替
		(c)	化粧目地 15×20		F	コンクリート面仕上A種 → 防滑性ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替	M	
					G	アルミサッシュ・ガラリ(シルバーアルマイト) → 建具清掃(ガラス共)	N	

訂正 令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学	工事名 奈良先端大 バイオサイエンスD棟外壁改修工事	年度 令和8年7月
	課長 課長補佐 係長 専門職員 担当者	図面名称 北面立面図	縮尺 1:200 図面番号 A-05

- A部・B部・C部(外壁タイル等)
既存 45角磁器質タイル貼り
改修 外壁補修(ひび割れ、欠損、浮き部補修)の上、
高圧洗浄(10mpa)
- D部(外壁塗装等)
既存 コンクリート面仕上A種の上、メタリック塗装
改修 高圧洗浄(10mpa)、外壁補修(ひび割れ、欠損、
浮き部補修)跡、下地調整材(C-1)の上、EP-G(メタリック)塗装
- E部(階段外壁塗装等)
既存 コンクリート面仕上A種の上、メタリック塗装(ゆず肌仕上げ)
改修 高圧洗浄(10mpa)、外壁補修(ひび割れ、欠損、
浮き部補修)跡、下地調整材(C-1)の上、EP-G(メタリック)塗装
(ゆず肌仕上げ)
- F部(階段床等)
改修 既存コンクリート高圧水洗いの上、防滑性ウレタン塗膜防水(X-2)床面、
立上りH100
- G部(窓建具等)
既存 8連引違い窓(欄間込)(W2,375+W18,180+W2,375)×H1,970
既存 引き違い窓 W2,375×H1,970
改修 建具周囲シーリング打替え15×10
ガラス外面 イソネホジット除去(ウロ落とし)
建具清掃(枠共)
- H部(屋外階段鋼製部等)
既存 手摺H-150×150×7×10
改修 下地調整(RB種)の上、DP塗装
- K部(パラペット等)
既存 アルミ笠木(避雷導体付)
改修 清拭



東面立面図

 D棟	凡 例 外壁改修	—	ひび割れ補修ヶ所	凡 例 既存仕上 ↓ 改修仕上 及び 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	スチール 既存FE → DP塗替え
			剥落・剥離補修ヶ所		B	同上模様入り(ラスタータイル) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	スチールドア 既存FE → DP塗替え
			エフロ補修ヶ所		C	同上模様入り(特注色) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	ベントキャップ → 周囲シーリング打替え
	凡 例 既存目地 (全て打替え)		打継目地+タイル伸縮目地 5×10		D	コンクリート面仕上A種 FUE(メタリック) → EP-G(メタリック)塗替	K	アルミ笠木(既製品)(メタリック) → 清拭
			誘発目地 5×7		E	コンクリート面仕上A種 FUE(メタリック)(ゆず肌仕上げ) → EP-G塗替(メタリック)(ゆず肌仕上げ)	L	ウレタン系塗膜防水(X-2) → 高圧水洗いの上、ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替
			化粧目地 15×20		F	コンクリート面仕上A種 → 防滑性ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替	M	
					G	アルミサッシュ・ガラリ(シルバーアルマイト) → 建具清掃(ガラス共)	N	

訂正 令和 年 月 日	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学					工事名 奈良先端大 バイオサイエンスD棟外壁改修工事	年度 令和8年7月	
	課長	課長補佐	係長	専門職員	担当者		縮 尺	図面番号
							縮 尺	図面番号
							1:200	A-06

A部・B部・C部(外壁タイル等)
既存 45角磁器質タイル貼り
改修 外壁補修(ひび割れ、欠損、浮き部補修)の上、高圧洗浄(10mpa)

D部(外壁塗装等)
既存 コンクリート面仕上A種の上、メタリック塗装
改修 高圧洗浄(10mpa)、外壁補修(ひび割れ、欠損、浮き部補修)跡、下地調整材(C-1)の上、EP-G(メタリック)塗装

E部(階段外壁塗装等)
既存 コンクリート面仕上A種の上、メタリック塗装(ゆず肌仕上げ)
改修 高圧洗浄(10mpa)、外壁補修(ひび割れ、欠損、浮き部補修)跡、下地調整材(C-1)の上、EP-G(メタリック)塗装(ゆず肌仕上げ)

F部(階段床等)
改修 既存コンクリート高圧水洗いの上、防滑性ウレタン塗膜防水(X-2)床面、立上りH100

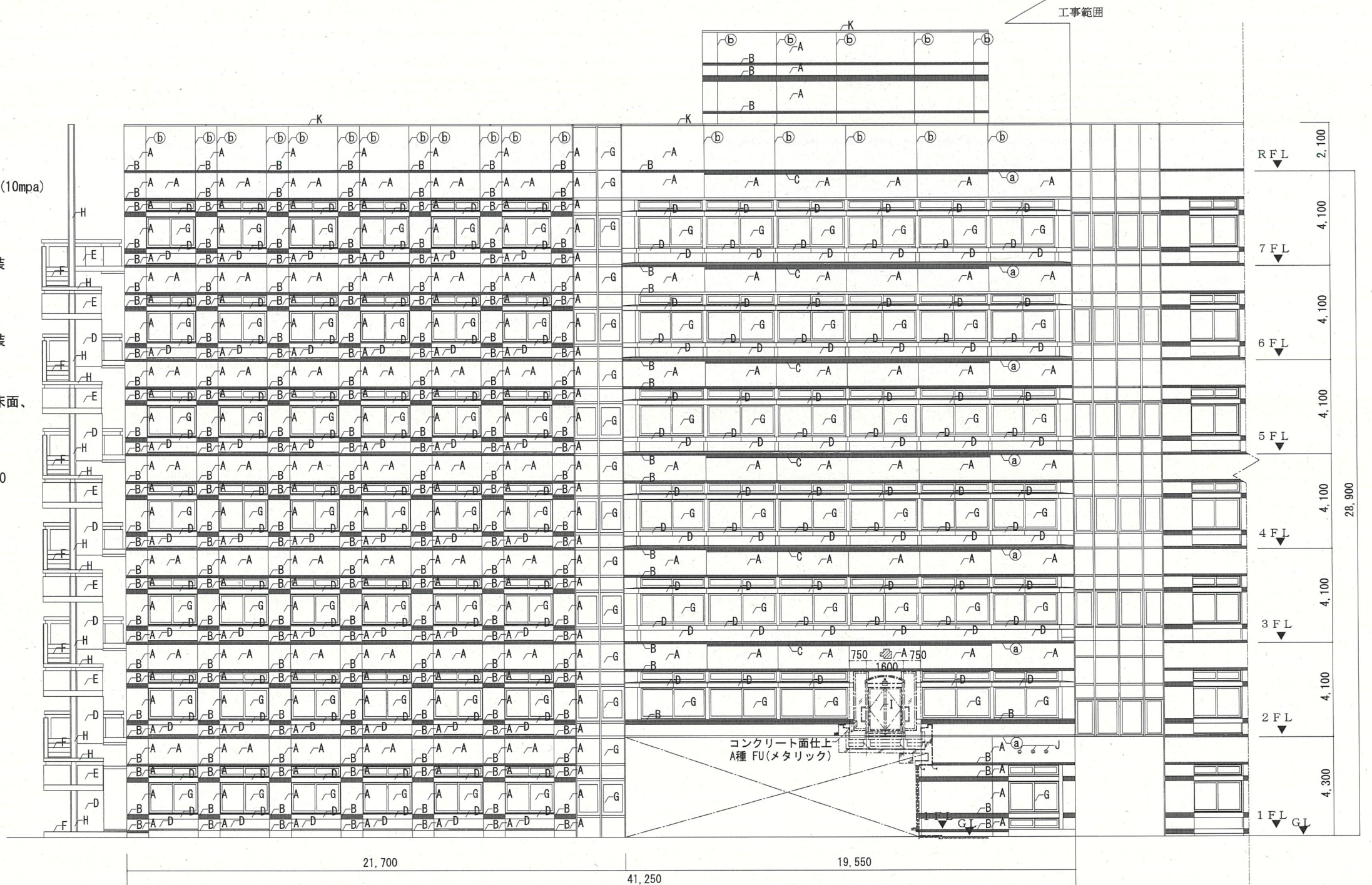
G部(窓建具等)
既存 引き違い窓 W2,375×H1,970
既存 8連引き違い窓(欄間込)(W2,375+W18,180+W2,375)×H1,970
改修 建具周囲シーリング 打替え15×10
ガラス外面 イオン交換樹脂除去(ウロ落とし)
建具清掃(枠共)

H部(屋外階段鋼製部等)
既存 手摺H-150×150×7×10
改修 下地調整(RB種)の上、DP塗装

I部(鋼製扉等)
既存 W2,900×H2,975
改修 下地調整(RB種)の上、外面DP塗装(枠小口共)
建具周囲シーリング 打替え15×10
建具調整及び外面清掃

J部(ベントキャップ等)
改修 周囲シーリング 打替え10×10
清掃

K部(パラペット等)
既存 アルミ笠木(避雷導体付)
改修 清拭

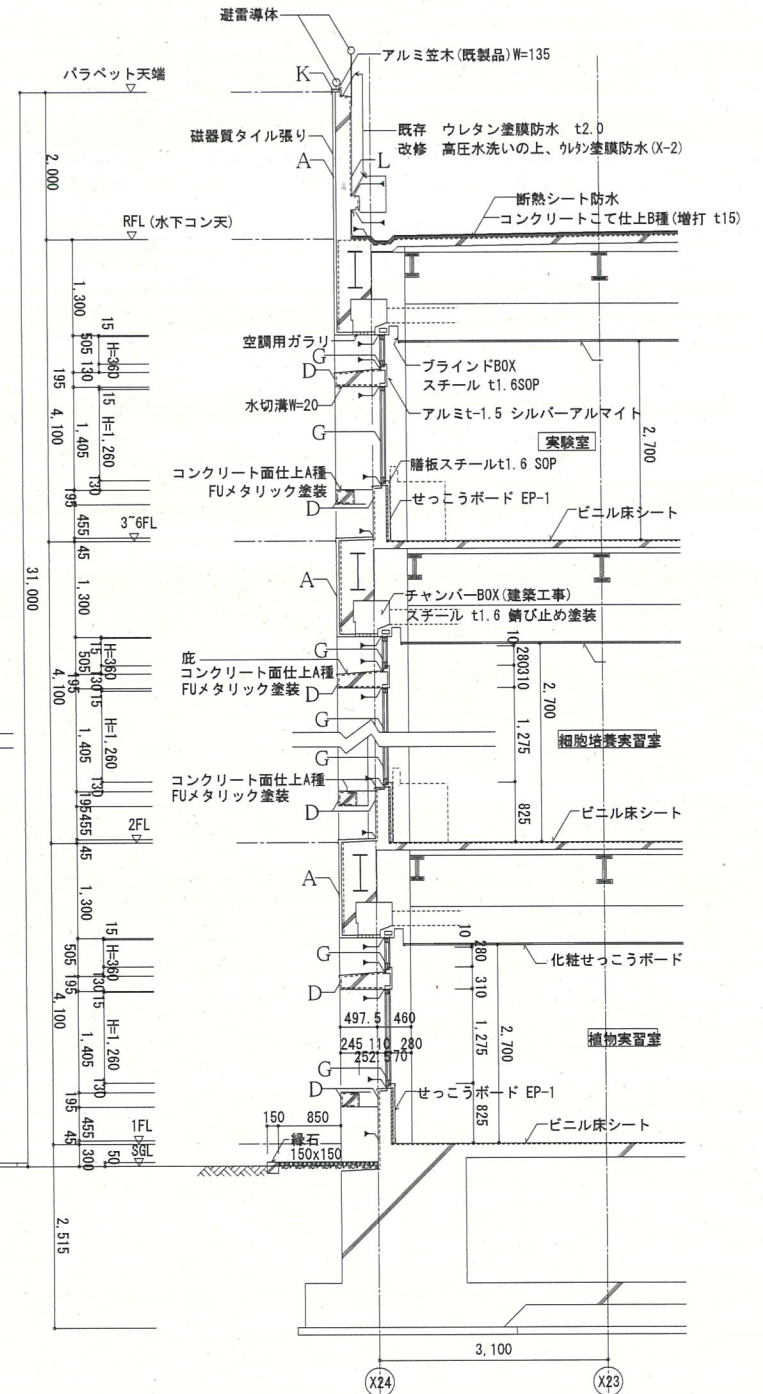
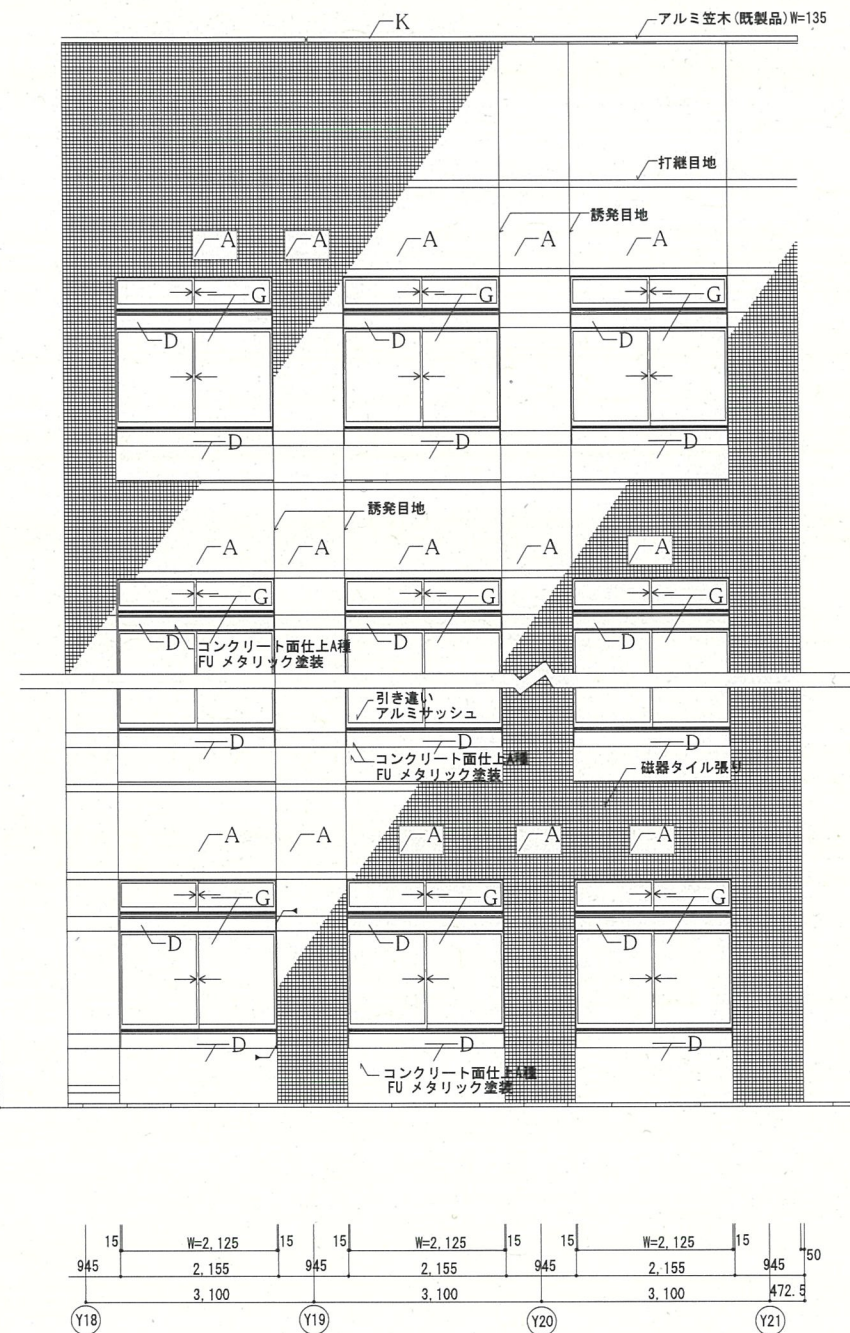
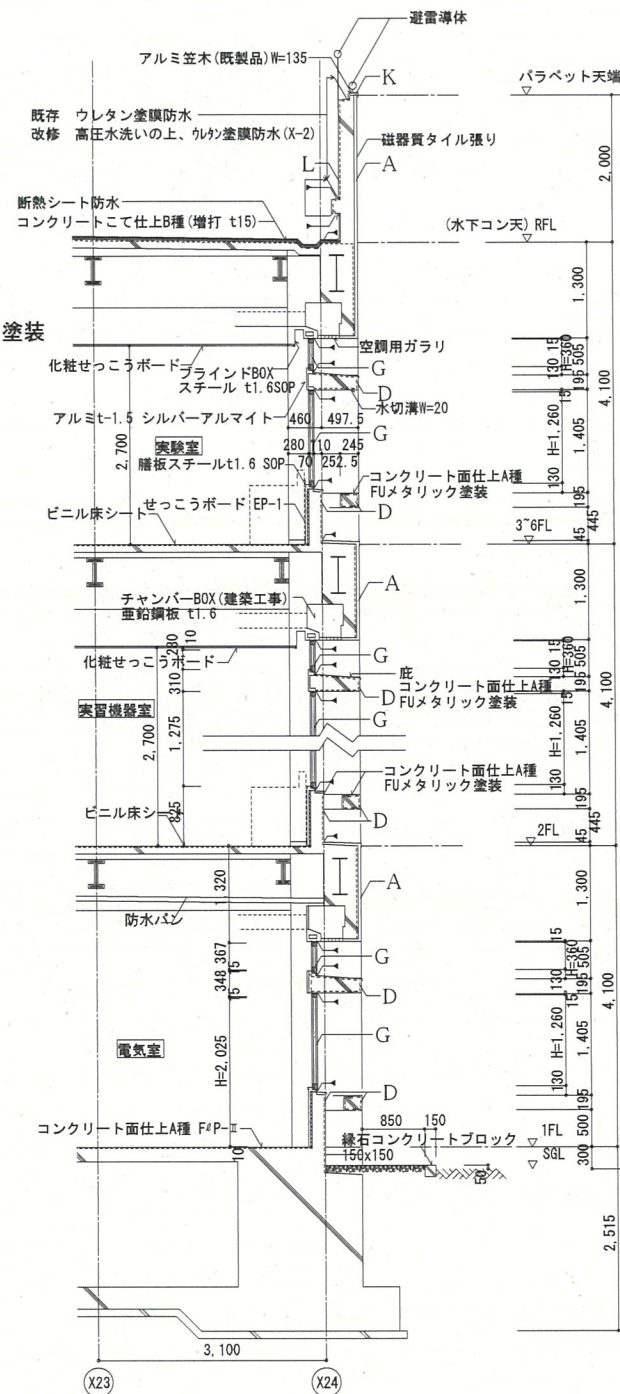


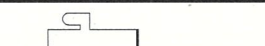
西面立面図

	凡 例	—	ひび割れ補修ヶ所	凡 例 既存仕上 ↓ 改修仕上 及び 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	スチール 既存FE → DP塗替え
	外壁改修		剥落・剥離補修ヶ所		B	同上模様入り(ラスタータイル) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	スチールドア 既存FE → DP塗替え
	凡 例		エフロ補修ヶ所		C	同上模様入り(特注色) → ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	ベントキャップ → 周囲シーリング打替え
	既存目地		打継目地+タイル伸縮目地 5×10		D	コンクリート面仕上A種 FUE(メタリック) → EP-G(メタリック)塗替	K	アルミ笠木(既製品)(メタリック) → 清拭
	(全て打替え)		誘発目地 5×7		E	コンクリート面仕上A種 FUE(メタリック)(ゆず肌仕上げ) → EP-G塗替(メタリック)(ゆず肌仕上げ)	L	ウレタン系塗膜防水(X-2) → 高圧水洗いの上、ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替
			化粧目地 15×20		F	コンクリート面仕上A種 → 防滑性ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替	M	
					G	アルミサッシュ・ガラリ(シルバーアルマイト) → 建具清掃(ガラス共)	N	

訂正 令和 年 月 日		国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学	工事名 奈良先端大 バイオサイエンスD棟外壁改修工事	年度 令和8年7月
		課長 課長補佐 係長 専門職員 担当者	図面名称 西立面図	縮尺 図面番号 1:200 A-07

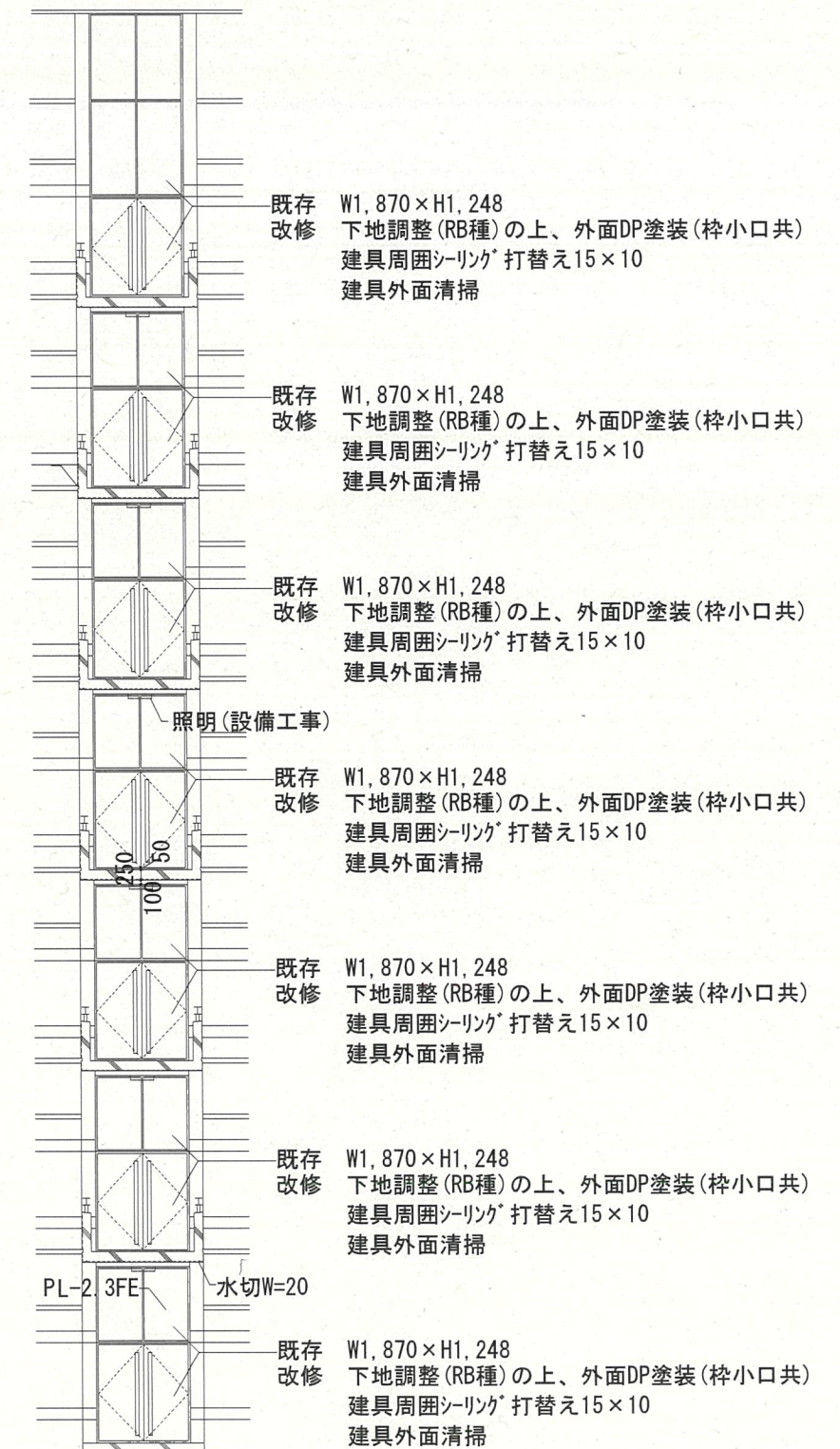
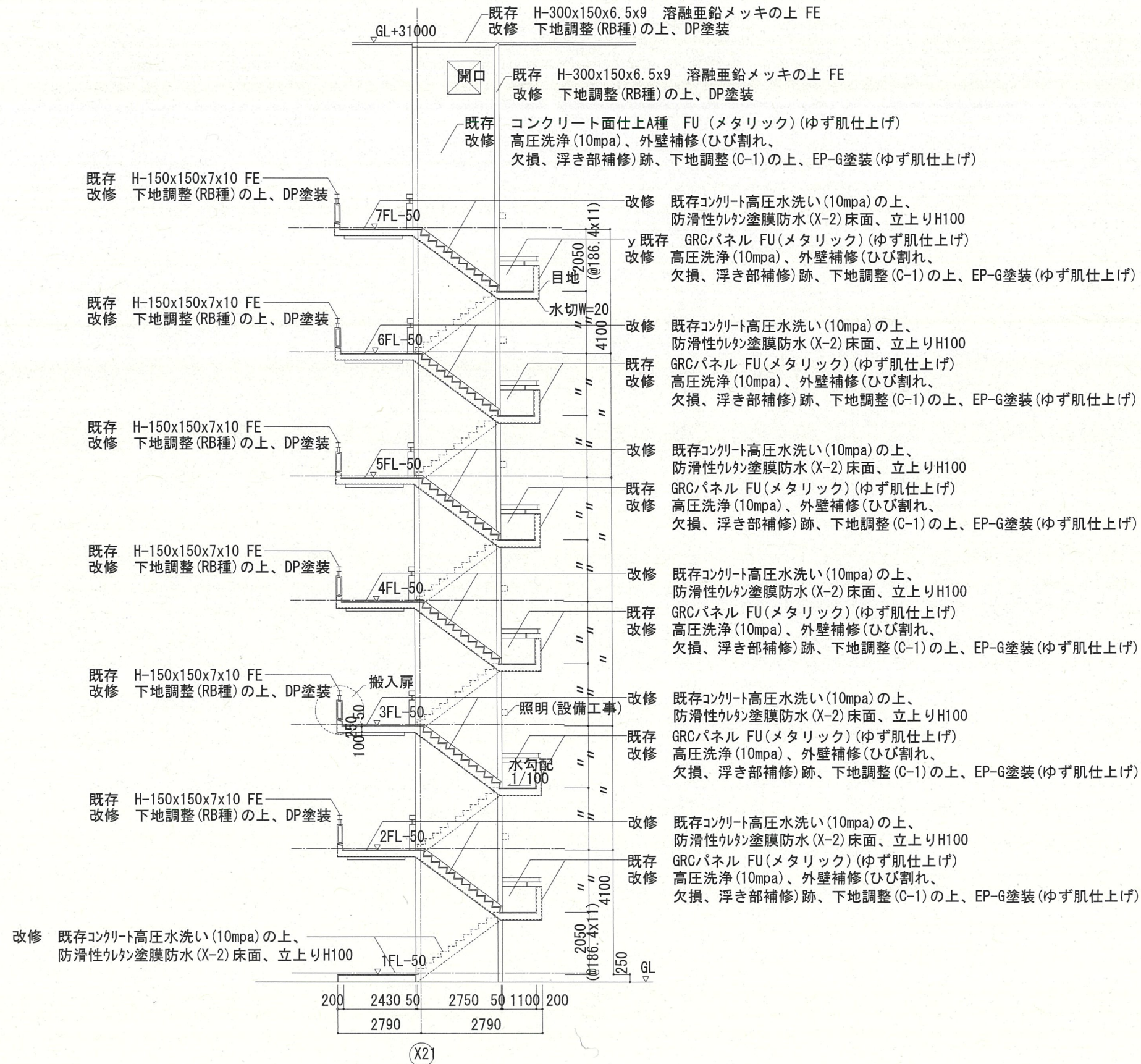
L部(塗膜防水壁等)
既存 ウレタン塗膜防水
改修 高圧水洗いの上、ウレタン塗膜防水(X-2)



	凡 例 外壁改修	—	ひび割れ補修ヶ所	凡 例 既存仕上 ↓ 改修仕上 及び 改修概要	A	45角磁器質タイル張り → ひび割れ・欠損・浮き部処理	H	スチール 既存FE → DP塗替え
			剥落・剥離補修ヶ所		B	同上模様入り(ラスタータイル)→ ひび割れ・欠損・浮き部処理	I	スチールドア 既存FE → DP塗替え
			エフロ補修ヶ所		C	同上模様入り(特注色)→ ひび割れ・欠損・浮き部処理	J	ベントキャップ → 周囲シーリング打替え
	凡 例 既存目地 (全て打替え)		打継目地+タイル伸縮目地 5×10		D	コンクリート面仕上A種 FUE(メリック) → EP-G(メリック)塗替	K	アルミ笠木(既製品)(メタリック) → 清拭
			誘発目地 5×7		E	コンクリート面仕上A種 FUE(メリック)(ゆず肌仕上上げ) → EP-G塗替(メリック)(ゆず肌仕上上げ)	L	ウレタン系塗膜防水(X-2) → 高圧水洗いの上、ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替
			化粧目地 15×20		F	コンクリート面仕上A種 → 防滑性ウレタン系塗膜防水(X-2)塗替	M	
					G	アルミサッシュ・ガラリ(シルバーアルマイト) → 建具清掃(ガラス井)	N	

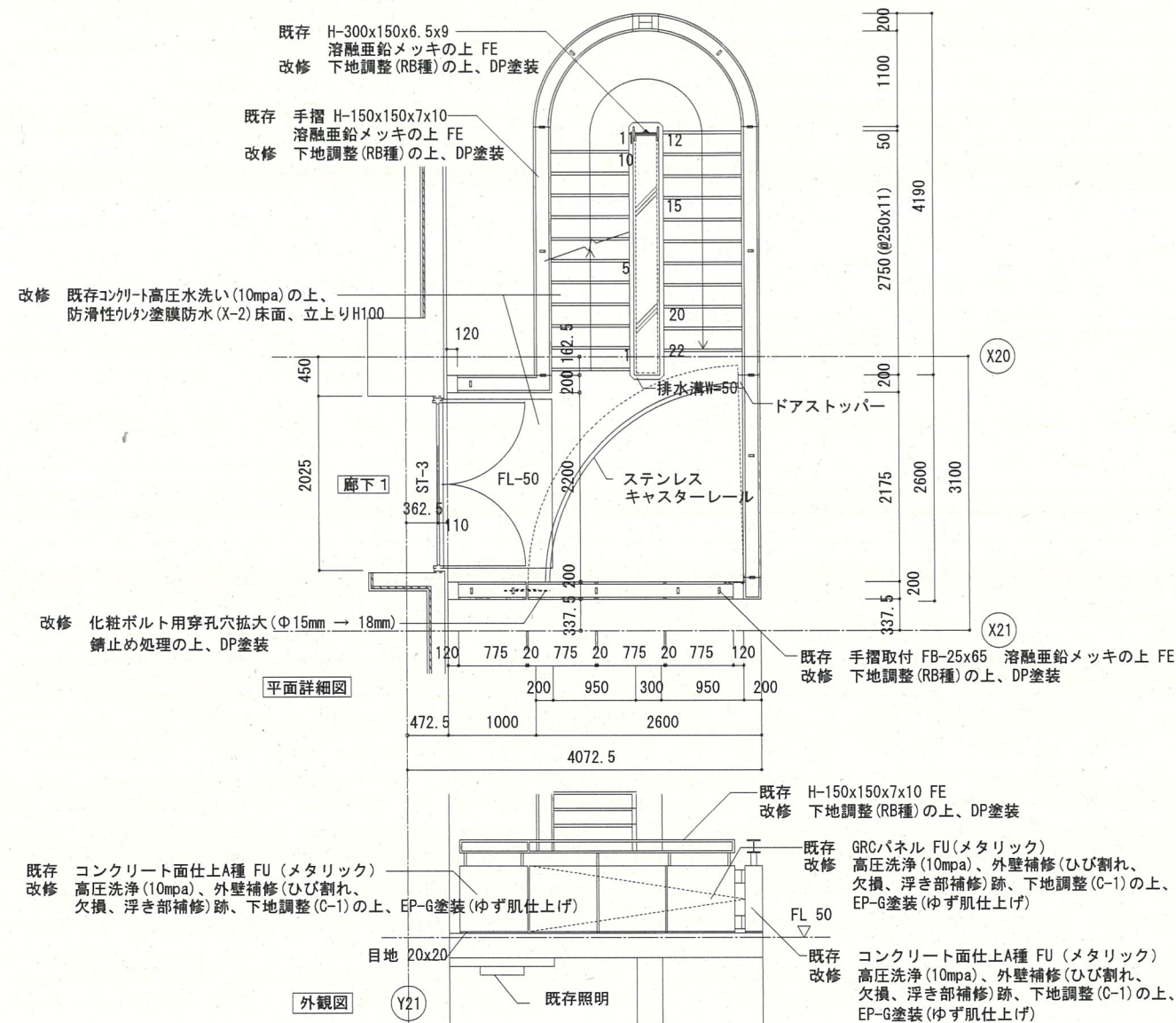
[illegible]

屋外階段詳細図

[illegible]

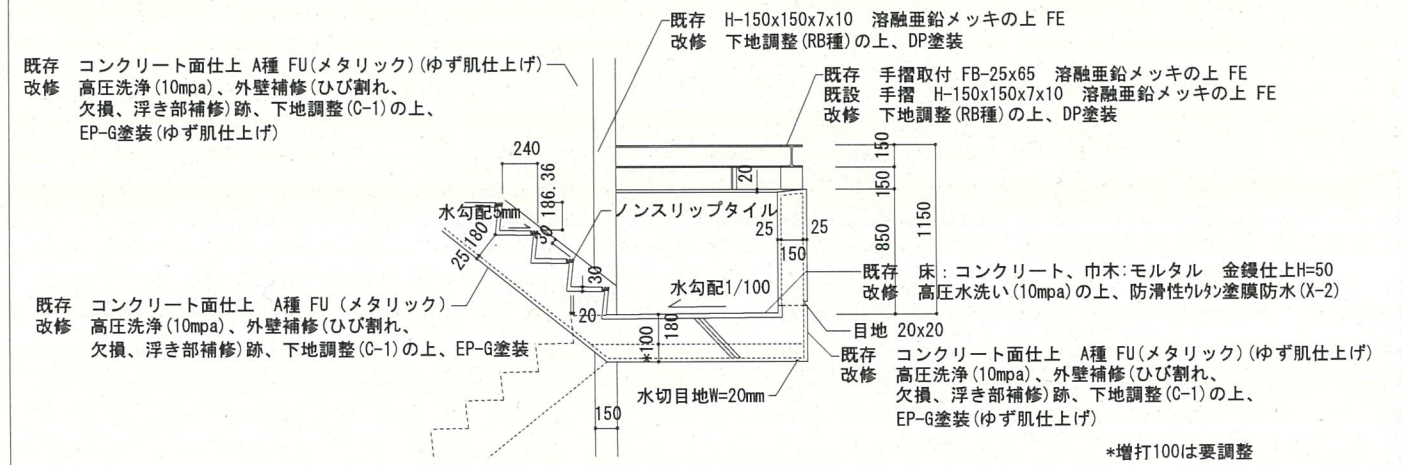
階段詳細図

1/75



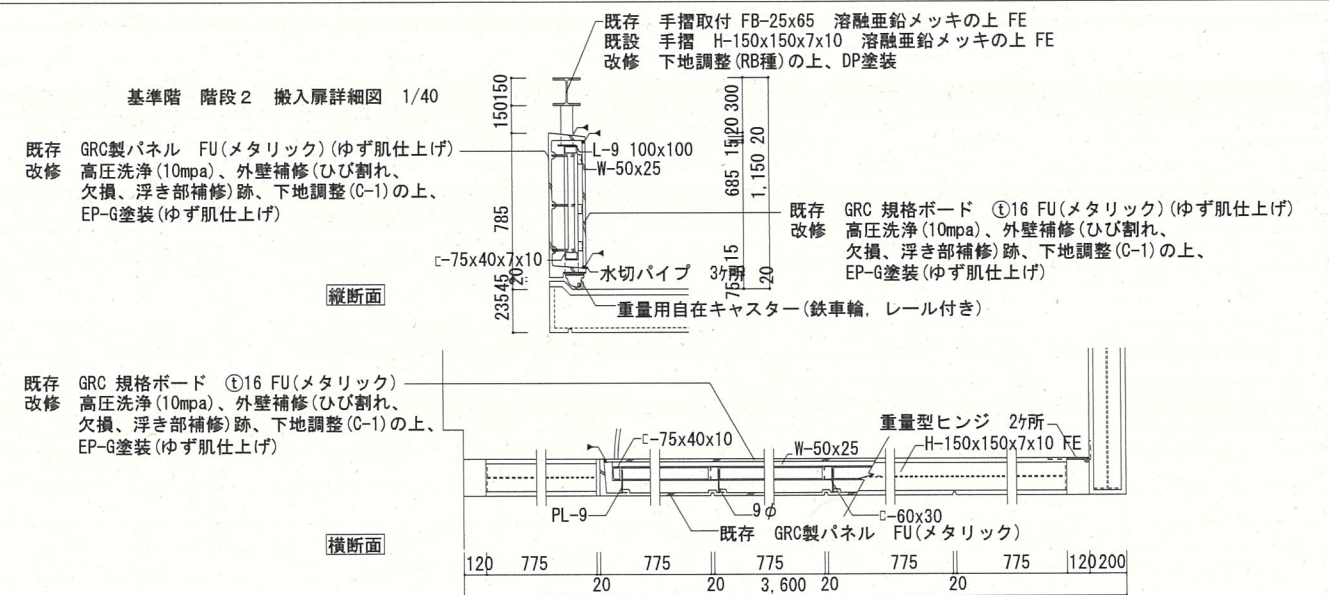
中間踊場縦断面詳細図

/50



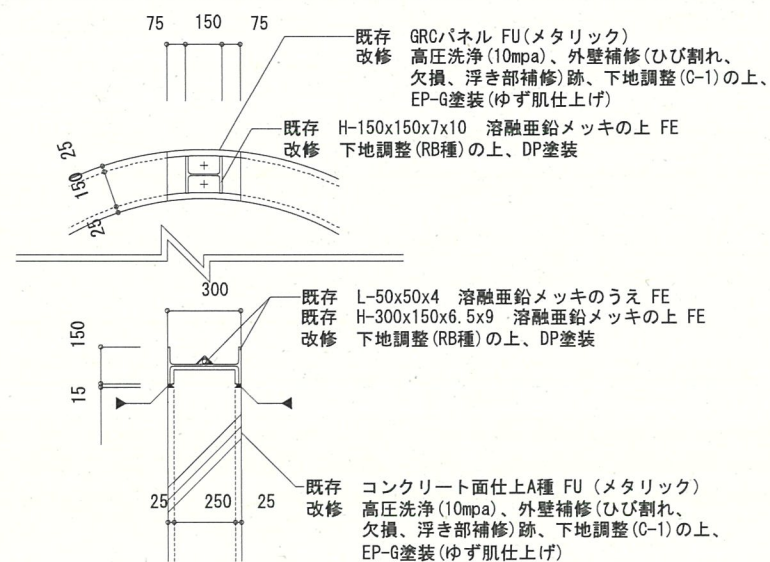
搬入扉詳細図

1/40

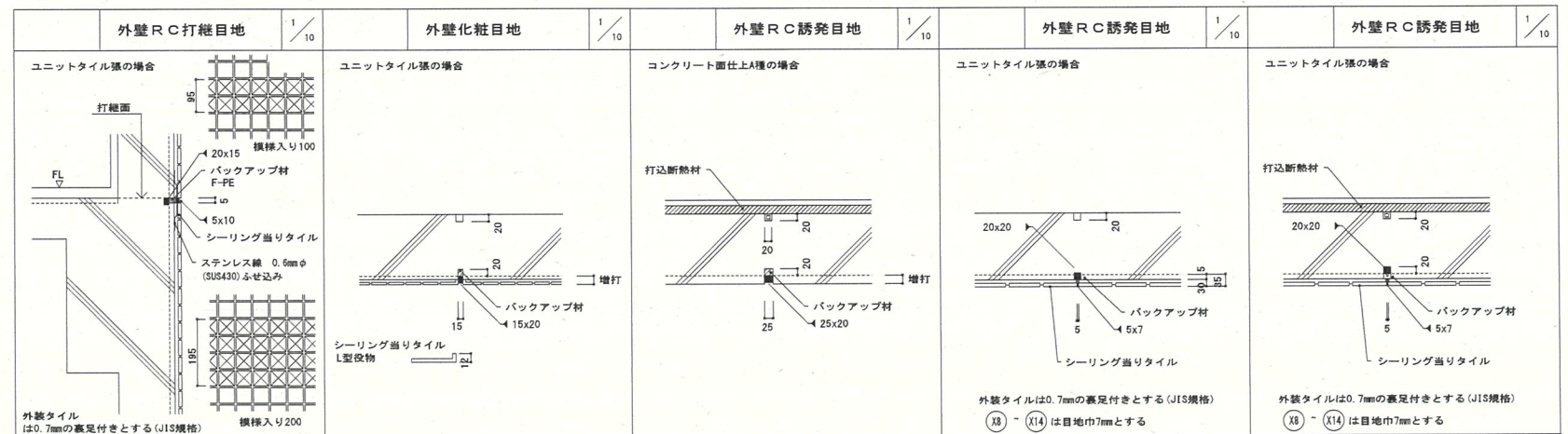


中間踊場横断面詳細図

1/30

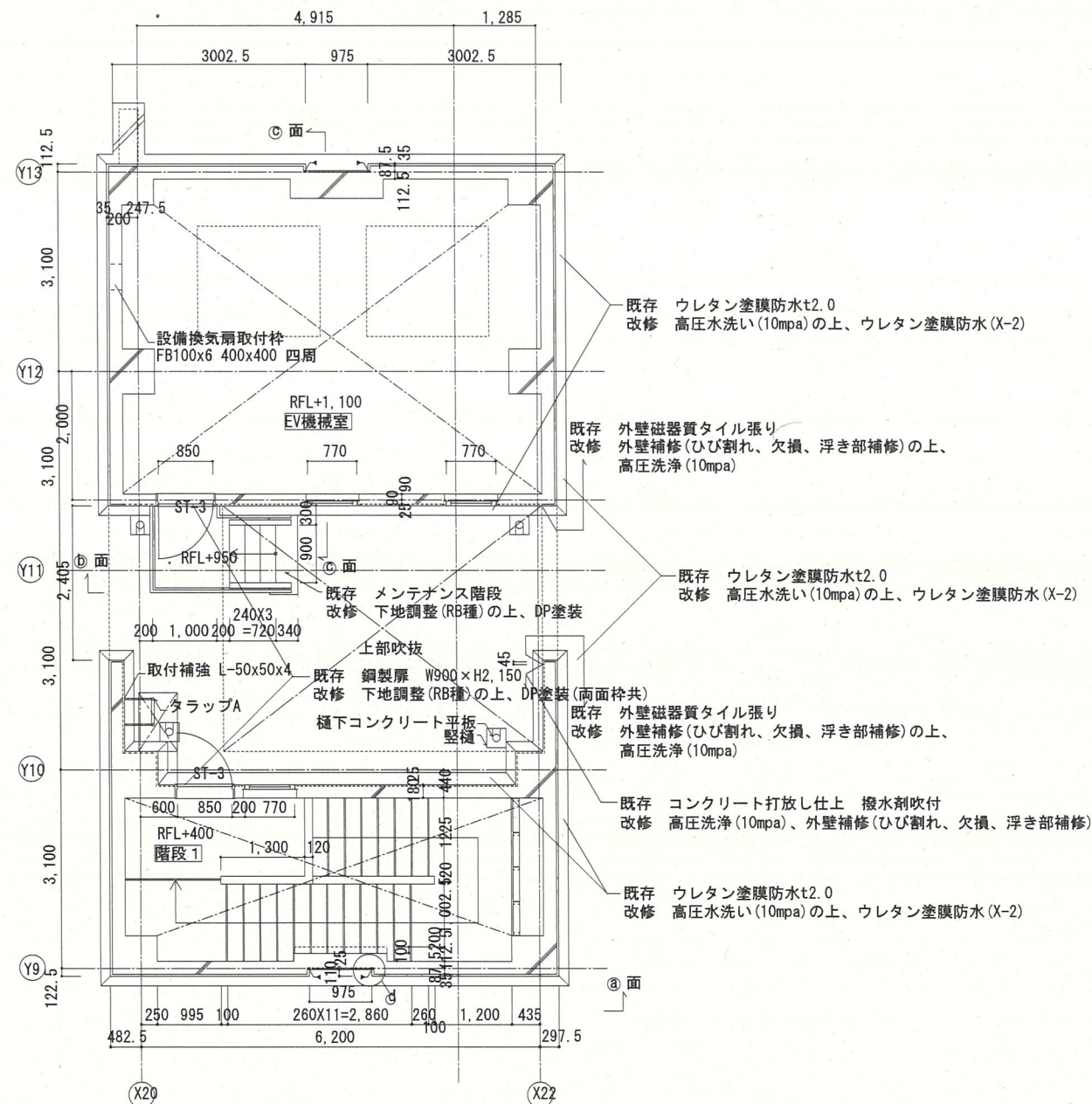


外壁目地詳細図

[illegible]

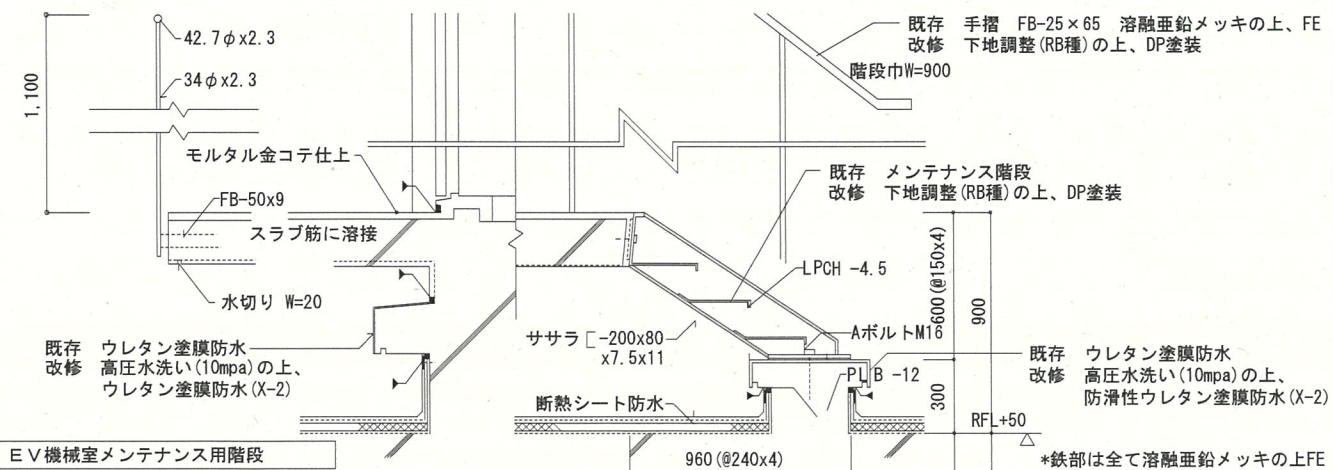
塔屋階段詳細図

1/100



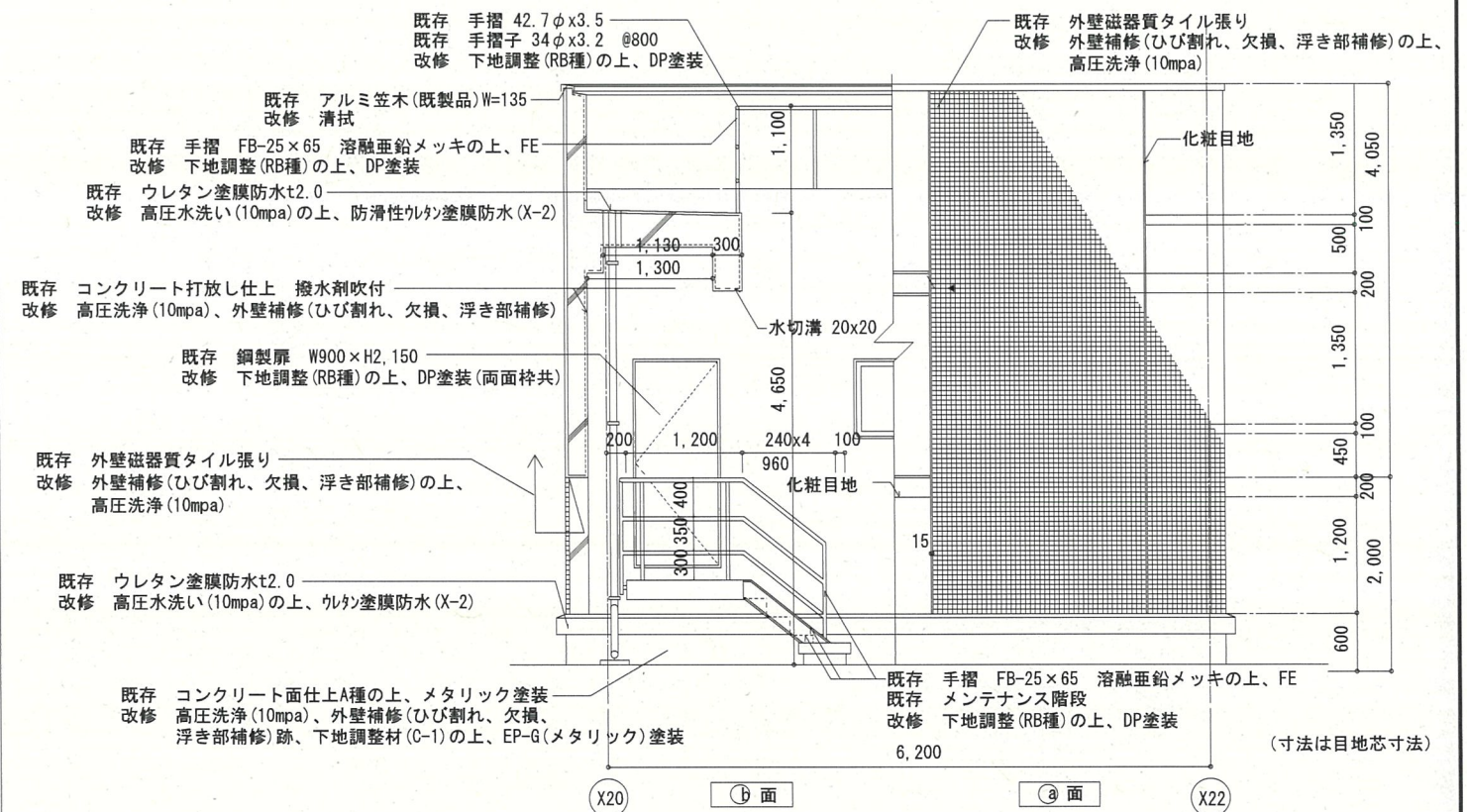
塔屋階段詳細図

1/30



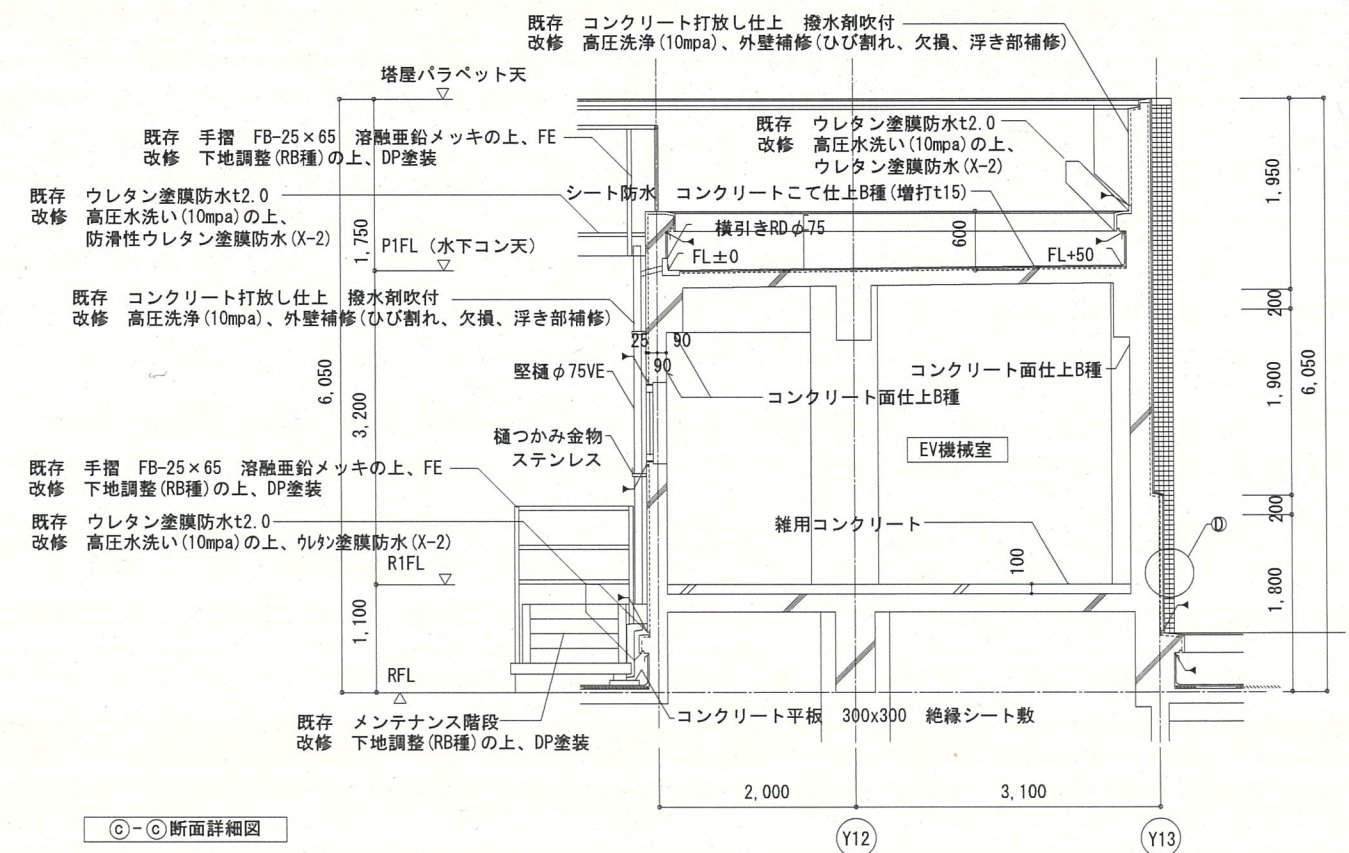
塔屋詳細図

1 / 75



塔屋詳細図

1/75

[illegible]